

## 第 15 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

1 日時 平成 17 年 12 月 25 日（日）午前 9 時 00 分～午後 0 時 00 分

2 場所 長野県庁西庁舎 1 階 111 号会議室

3 出席委員

中村 正行委員長	市川 浩一郎委員
森野 貞雄副委員長	若麻績 享則委員
青木 一委員	清水 保委員
中沢 一委員	坂口 昌夫委員
小山 元彦委員	小山 壽一委員
塚田 芳樹委員	宮本 精一委員
牧 重信委員	丸山 稔委員

4 開会

（柳澤教育主幹）

皆さま、おはようございます。

本日は大変お忙しいところを、また大変な寒さの中お集まりいただきましてありがとうございます。

それでは定刻になりましたので、委員長さま、よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

おはようございます。

それでは、第 15 回の高等学校改革プラン推進委員会を開催させていただきます。

本日の資料説明の後、各委員さん方のお持ちの情報をご説明いただいて、その後前回の続きの議論に移りたいと思います。

それでは事務局から資料の説明をお願いいたします。

（柳澤教育主幹）

それでは、よろしくお願いいたします。

最初に他の推進委員会の状況についてでございますが、前回の 17 日のこちらの推進委員会の開催以降、2 つの推進委員会が開催されております。

まず最初に、12 月 18 日日曜日に第四推進委員会、第 14 回目が開催されております。そちらの様子でございますが、第四推進委員会では第 12 区大北地区の集中論議が行われました。

大北地区の論議として、委員長から 4 つの案が提示されまして、それをベースに議論が進んだわけでございますが、1 つが大町と大町北高校の統合、それから 2 つ目が白馬高校の分校化、3 つ目が白馬高校と大町北高校の統合、それから 4 つ目が池田工業高校の廃止という提案がございまして、それを中心に慎重な議論が進められました。

最終的には、大町と大町北高校の統合ということで合意がされたところでございます。引き続き第 11 区の議論に入ったわけでございますが、11 区の議論につきましてはさら

に引き続いて次回検討ということになっております。本日の午後、開催をされる予定になっております。

続きまして第二推進委員会でございますが、第二推進委員会は23日の金曜日、第14回目が開催されております。こちらのほうでは、望月からの多部制・単位制高校への転換という提案につきまして議論が進められまして、その提案については、中身については、これから生かしていかなければならない部分もあるが、やはり多部制・単位制の一番のポイントである、交通の利便性といった点から、問題がある、難があるということで、一致を見たところでございます。

また望月と蓼科の統合につきましては、2つのこれまでの学校の良さを生かして、統合によってさらに新たなより良い高校をつくっていくべきであるといった意見も幾つも出されたわけでございますが、全員一致というところまでは至ってはおりません。

また野沢南高校の多部制・単位制へのことにつきましては、ほかの周りの学校のことも考慮しつつ、さらに具体的な校名を挙げて検討をする必要があるであろうということで、今回の第二推進委員会は、そういった点から一部非公開で開催をするということで、合意がなされたところでございます。

他の推進委員会の状況につきましては以上でございます。

以下、高校教育課柳澤教育主幹より資料説明 【説明内容省略】

（中村委員長）

はい、ありがとうございました。資料に関するご質問等ありましたら、委員の皆さん、お願いします。

（市川委員）

松代高校の件で、私のほうへ松代高校の存続にかかわる意見書というのを頂いております。委員長のほうへ行っていますでしょうか。

（中村委員長）

はい、いただいています。この後紹介しようと考えていました。

（市川委員）

そうですか。すみませんでした。じゃあ後ほどでよろしいですか。

（中村委員長）

皆さんのところへ届いているのでしょうか。届いていないのでしょうか。

（市川委員）

では、言いますか。

（中村委員長）

わかりました。はい、ご紹介いただいて結構です。お願いします。

(市川委員)

前回の会議で、初めて松代の名前が出ました。それで、松代高校の学校当局の関係者の皆さま、また同窓会。それと松代高校というのは、特に商業科と地域社会のつながりが非常に大きいので、その地域の商工業者あるいは経営者の皆さん方が非常に危機感を感じまして、急きょ対策委員会というものを開いたと私どもに報告をいただきました。

きょうそこへの意見書ということで、私のほうにちょうだいいたしました。先回にも申し上げましたように、松代の高校の名前は今まで全然挙がっていませんでしたが、前回挙がったということで、地域の皆さん方からすると非常に危機感を感じているのが事実でございます。

それとともに、今まで高校として対策の検討をしなかったんじゃないかというご意見もございましたが、そうではなくて今までにやっていると、他の高校にも非常に迷惑がかかるということで、松代の皆さん方は静観していたということ、私どものほうにちょうだいしてございます。

それで前回に、私が提案したように、ここで初めて松代高校という名前が出たので、これは検討せざるを得ないというのは事実でございますから、この期間はやっぱり慎重にせざるを得ないんじゃないかと。地域の人たちも、じゅうぶん検討したいということで、早急に結論を出すのはいかがなものかと私のほうからお願いをしたいということでございます。

(中村委員長)

事務局の資料の説明に関するご質問はよろしいでしょうか。

ただいまの松代高校の存続にかかわる意見書について、市川委員からご説明いただきました。私のところにも届いております。内容は、松代高校での特色ある高校づくり。それから地域連携、地域密着のその内容。それとあと伝統文化のあるところであるというご説明でA4、2枚にわたるものでございます。

本日はコピーが間に合いませんので、また次回、あるかどうかわかりませんが、次回までに皆さんにお配りしようと思います。それと、先ほど別室で、屋代南高等学校の将来を考える会の皆さん方から、多部制・単位制高校への転換に反対する要望書、皆さんの手元にいつているものを受け取りました。内容は、そこに書かれているとおりでございます。

(柳澤教育主幹)

すみません。今の松代の意見書は、すぐコピーしてまいります。

(中村委員長)

お願いいたします。

ほかに情報がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それと23日に第二推進委員会、先ほど事務局から内容をご紹介いただいたとおりですが、私も傍聴してまいりました。多部制・単位制にかかわる議論がなされていまして、その点をこちらとも影響がありますので聞いてまいりましたが、まだ進展がないという感じがします。今回は非公開ということですので、そちらの情報を参考にということになるか

どうか。

非公開のあとの結果に関しては、報告いただけるということでしたので、そちらを報告の中には含めていけるのかもしれませんが、きょうの議論の中ではそれほど影響はないのかなと思います。こちらで、より良い配置に関して検討すればよろしいのではないのかというふうに考えています。

それでは、議事へ入らせていただいてよろしいでしょうか。

（宮本委員）

先日教育委員会から、高校改革プランに対して活力と魅力ある高等学校づくりを目指してという提案を募集するのがありまして、それについて県の趣旨と委員会に与える影響みたいなものがありましたら、説明していただきたいのですが、どういうことで、どういう目的ということをお願いしたかということです。

（中村委員長）

事務局、お願いいたします。

（柳澤教育主幹）

意見募集につきましては、いろんな形でこれまでも改革プランにつきましては実施してまいりましたし、日常的にもメール、ファックス、電話等々入っておりますが、今、それぞれの推進委員会がまとまりつつあるといえますが、最終段階を迎えておりますし、また当初のスケジュールどおり本年度末までの実施計画策定ということに向けまして、広く県民の皆さまから、この期限を切っているいろいろな意見をちょうだいして、教育委員会として、実施計画策定の参考にしてまいりたいと、こういうことで募集をしたということでございます。

（中村委員長）

ありがとうございました。宮本委員、よろしいですか。

（宮本委員）

意見募集について見ますと、22日から1月10日まで意見を募集していますが、そこには“意見に対しては個別の回答はいたしかねますが、発表、公表する”となっておりますが、何かそのことについて推進委員会に影響を与えるわけでもなく、教育委員会として独自に参考にしたいということでしょうか。

（柳澤教育主幹）

おっしゃるとおりでございまして、こちらの推進委員会の議論とかそういうことではなく、今お話がございましたように、教育委員会として意見をちょうだいしたいということで募集したものでございます。

(中村委員長)

ほかにありませんか。

それでは議事へ入りたいと思います。前回の続きをお願いしたいと思いますが、やはり中心は多部制・単位制の配置に関することでしょうか。そこに絞ってまずスタートしたいと思います。

今具体的に校名が挙がっておりますが、候補案として坂城高校、それから対案という形で委員さんから屋代南高校という校名が挙がっております。前回少し議論をいただきましたが、具体的なところは少しまだかなという気がしますので、それぞれの課題ですね。それに関して、お気付きの点があればご発言いただきたいと思います。

また第二推進委員会でも、やはり市街地に配置したほうがいいというご意見が出ておりました。上田駅前、小諸駅前というような意見が出ておりましたが、そこからは具体的には進展がなく、議論が進みませんでした。ですので、こちらの地区でも市街地ということは以前から出ておりますが、もし具体的にアイデアがありましたら、その点も含めてご意見をいただきたいと思います。このような進め方でよろしいでしょうか。

まず、その辺からお願いします。

具体的な名前が挙がりますと、やはり発言が慎重にならざるを得ないのですが、例えば長野市内、駅前と考えますと、高校は限られてはきますが、それを多部制・単位制に転換するというのは、なかなか具体的には難しいことではないかと思います。

ですから、名前が挙がらなければ、やはり可能性があるというところで議論をしていただくことになるのではないかと考えていますがいかがでしょうか。

(牧 委員)

おはようございます。

前回欠席をさせていただいたのですが、基本的には私はやはり都会というか、この通学区であれば、やっぱり長野市を中心とした市街地が望ましいと前々から考えていますが、その背景はご案内のように、多種多様な子どもたちが望む学校というのは、やはり相対的に都市部といわれる地域に、多くの子どもたちがいるところで、やっぱりそういう学校に来たいという子が多いと思うんですね。

ですからできるだけ都心部といいますか、そういうところに学校があったほうがいいかなと思います。随分前になりますか、いろんな話の中でも、長野市の都心部はどうか。学校がないということで、せいぜい近くとも、長野工業高校だというような話が、前出たと思いますが、新しく多部制・単位制の学校をつくるということは非常に財政的にも難しいと思うし、そこまで考える必要はないかと思いますが、ひとつの方向として立地条件は多くの子どもたちが集まれる、あるいは潜在的にも多くの子どもがいる都会のほうがいいかなという感じはしていますが、公益施設や、あるいは店舗であったものが、今使っていないというような状況の中で、そういう施設を改造するなり、あるいは新たな教育施設としての建物に造り替えるようなことをして、費用も最小限度にして、そういう形の中で進めるのも、ひとつの案かなと思います。

いずれにしても、やっぱり一番交通の便のよいところに、多部制・単位制があってしかりかなと私は考えています。ですから今の学校群の中で、適当なところがなければ、さら

なるそういうアイデアを考えて、進められるのもひとつの案かなと思います。

具体的に出ております坂城高校もあるし、非常に地域的にはちょっと外れになるかなという感じもしますし、この件については、やっぱり私は長野市内かなと思っています。

（中村委員長）

ほかにご意見はありますでしょうか。利便性ということで、しなの鉄道沿線が望ましいのではないかとということですが、坂城高校の名前が挙がった理由にもなっております。また第2通学区との関係で、少し長野市寄りというよりは、南のほうに寄った形の配置案だと思います。

都市部が望ましいというのは、非常に大きな理由ですが、なかなか候補としてなければ、やはり鉄道ということを考えて、利便性が優先されるのであれば、鉄道を考えていくべきだと思います。

長野工業の転換となりますと、今度は工業高校の配置、必要性、そういったものに絡んできまして、別の地区との影響がございます。なかなかその辺も考えなければいけないのではないかと。公益施設というお話でしたが、これも、もんぜんぶら座という案が、どなたかある団体さんから紹介されています。長野市中心部の、交差点のところにあります旧ダイエーのビルですね。キャパシティは多分じゅうぶんだろうと思いますが、グラウンドをどうするか、かなり大きな課題が残るのではないのでしょうか。

そういうことも考えて、ほかにご意見をいただきたいのですがいかがでしょうか。

（丸山委員）

はい。私は前から言っていますが、私は定時制の充実といいますか、そこに多部制・単位制の性格を少し入れてやってみたらどうかという話をしています。それとの関連で今の牧さんのご意見と関連して、ひとつの学校を廃止して転換するというのは、前にも言ったように全く違う学校になるという、これは、総合学科と少し違うんですよね。だから、全く違う学校になるということは、その学校がなくなるということを意味しているので、なかなか難しいわけですよ。私も長野市内はいいと思いますけどね。

そう言うのは、坂城も屋代南も、確かにしなの鉄道沿線で言えば、いいということになります。2区がどうなるかということがかなり大きいでしょう。2区の動きを見てみると、野沢南や望月や無理になるんじゃないですか。当然ここでの意見と同じように、しなの鉄道沿線になる可能性が強いんじゃないですか。

そうするとちょっと、両方もしなの鉄道沿線ということは、これはあまりよくない。もし多部制・単位制がほんとにいいとしたら、北信はやっぱり長野市内につくる必要がある。そうすると学校がないという話になるわけですよ。

だから私は、もう一遍提案しますが、現状の定時制にそういう要素をつけ加えて少しやってみながら、何年間かのうちにさっきの空き施設みたいなことも含めて検討することはできないのかと思います。

確かにいろんな条件として、グラウンドの問題など、いろいろあるかもしれませんが、ちょうどいい適当な施設があるかどうかという問題もありますが、それは2、3年なり、4、5年なり検討して、それまでに多部制・単位制の要素を入れながら定時制の中でやっていき

ながらということで、もし居場所があれば引き継いでいくと。そういうことができないのかと。無理して、無理やりひとつを転換していくということは難しいんじゃないか。

それからもうひとつは、屋代南は河東線があると言いますが、多部制・単位制の最もいいところは、午前中、午後、夜とあるわけです。午前だけ行く、夜だけ行くということになるわけですね。それで本数は足りませんか。しなの鉄道より多く運行されていればまだいいですが、2時間に1本ぐらいではないでしょうか。

そういうところで、多部制・単位制の良さが生かされるのか。特に北信、北信濃から行く生徒は、とても河東線を使ってはいけないわけですよ。それは長野を回っていかばいいと言いますが、乗り換えていくことは大変なことで、多部制・単位制に行く生徒は、そういうことも困難な生徒もかなりいるわけです。

それからもうひとつは、夜の定時制と多部制・単位制と選ぶ場合に、どちらでもいいやという生徒は、多部制・単位制は少し大人数になりますが、基本的少人数でありますので、多部制・単位制を選択する可能性もありますが、やはり定時制の子は、夜の定時制に行くのではないかと思います。それから多部制・単位制は、もしいいとしたら別の意味を持った子たちも行くのではないかと思います。

そうすると、定時制もなくなる。それで多部制・単位制に全部集めるとなったら、多部制・単位制の場所についてもかなり問題になるので、全部残せとは言いませんが、定時制をある程度残しながら、そこに多部制・単位制の要素を入れつつ、何年かそれ続けて、ひとつひとつの新しい施設をどこか見つけてということも含めて検討しながら、そういうことに移行していければ移行していくと。単独校舎、独立学校で移行していくということではできないのかという、そういう現実的な対応をしないと、何かどこか変えるという見方では、なかなか地域の合意も得られないし、学校の合意も得られないし、なかなか全体の県民的合意は得られないと思います。

(中村委員長)

多部への転換は、なかなか全日制と併設では難しいのではないかというのは、カリキュラム上指摘されていることだと思います。単位制に関しては、もう既に3年で卒業できる状態にありますので、充実していく方向はよろしいのかもしれませんが、もう丸山委員がおっしゃっているようなことは進んでいるように思いますが。

やはり多部制・単位制で、少し規模を大きくして、少人数にも対応してとなると、独立校舎でどこかに配置していくというのが大きな魅力のひとつだと私は思いますが、その配置がなかなか難しいことだと思います。

現状の定時制を充実していく方向はいかがでしょうか、皆さん。充実はもう進んでいるように、私は思いますが、次のステップが、もう既に必要ではないかという気がします。

それと、全く違う学校になるという丸山委員のご意見、これもわかるような気がしますが、でもそこに通う人たちも、その校舎はまるっきり新しくなるわけではありませんし、通う人たちも、すべてが外からというわけではございませんし、じゅうぶんやってきたカリキュラム等は、単位制であっても実現できるように思います。

転換をすること自体が、地域の合意が得られないというのは、そこはやはり高校の再編でございますから、話し合いの中でやっていくしかないのかなと思います。多部制・単位

制の魅力がない、必要がないというご意見は、どうもないようなので、どうしても配置をしていきたいと思いますが。

（清水委員）

いつぞやの委員会でも発言をさせていただいた内容の繰り返しになると思いますが、やはり静岡中央を見学させていただいたイメージが非常に強く、多部制・単位制については、やはり静岡中央のように新設校であるならばまだしも、現状の高校を変えていくということについては、あれだけ充実した高校をすぐにというのは、極めて難しいのではないかと考えております。

従いまして、私の意見は総じて丸山委員さんとほぼ同じですが、せっかくある今の現状の定時制の高校の充実、その充実という意味合いもいろいろあるかと思いますが、多部制・単位制の要素を取り入れながら発展的に魅力ある高校づくりをしていけばいいのではないかなと思います。

まさに現状において、議論をだいぶなされている都市部への配置ですが、やはりこれといった高校というのはなかなか出てこないと思うし、もし仮に出てきたとしても、非常に現実味を帯びていないという感を強く持っております。

もんぜんぶら座にしても、グランドの問題などいろいろあって、どうもあまりにも現状から懸け離れたような話であって、それならば段階を追って現在ある既存の定時制、もしくは通信制、そういったものを多部制・単位制の要素を取り入れながら発展させていくというのが、今、この時点においては現状に沿った方策ではないかなと思います。

やはりどうしても、これも私はこの委員会で発言させていただいた記憶があるんですが、少人数での学習というものを望む子どもも結構いますし、そういったことからすると今、現在の定時制に通っている子たちの満足度というか、今、その学校に通っていられるという子どもたちの存在もじゅうぶん理解してやる必要があるのではないかなと思います。

（牧 委員）

ちょっと先ほどの発言と、大体中身をちょっと紹介させていただきますが私も地域高校は大切だと思っています。地域高校が大切だというのは、私は県全体で普通高校のレベルアップだと考えております。

それで今お話の出たような、多部制・単位制というのは、非常に特殊なカリキュラムを作るわけですね。ですからやっぱり通常の全日制の高校と違って、朝もあれば昼もあれば夜もある。そういうカリキュラムを組むことは、それなりの魅力がないと生徒が集まらないし、多種多様な多感な子どもたちが、ほんとに端的に言えば中心地から外れたところに大勢集まるんだろうかということを考えると、現実的にすべてその過疎から都会に出てきている動きがありますね。

生活動態といいますか、過疎は過疎でどんどん進んでいきます。都市は都市としての機能が、どんどん膨れていくという傾向が、これは結構全国的にあるんですよ。海外を見ても、やっぱりそういう傾向があります。日本同様ですね。やっぱり将来のことを考えれば、学校の位置付けというのは、こういう特殊学校については、私は都心部にあるのは望ましいと思います。



なぜかと言うと、実際わかりませんが、多部制・単位制の子どもたちは勉強だけやっているんでしょうか。その辺の実態も、ちょっと教育委員会で他県の状況についてお話を聞きたいんですが、アルバイトをしたり、また違った勉強以外のことを何かやっていたり、いろんな形で、勉学も当然やっているのかもしれませんが、違うこともいろいろやって生活の糧にしている方もいるだろうし、いろんな面で、青春を謳歌しているだろうと思います。

確かに都会の、万が一公益的な施設があっても、いろんな施設を借りれば、グラウンドはないし体育館もないし、ということになりましょうが、実際にどの程度の規模で、そういうクラスを運営するかとなると、そんな大きな問題ではないと思うんですね。

ですから小規模な特殊な学校であれば、限られたサークル、限られたスポーツになろうかと思います。そうすればそれなりにまたアイデアが出たり、知恵が出て、何らかの形でやれる環境というのは私はつくれると思います。これは、都会の大学だとか、あるいは短大だとか専門学校だとか、一部の都会の高校あたりもやっております。

ですから、器がなければ学校の機能としてちょっと無理なんだという考えじゃなくて、もっともっとやっぱりいろんな知恵を出し合って、やっぱりほんとの意味で魅力ある学校づくり、特殊な学校づくり。私は、特殊だと思っています。そういうことを、先生も子どもも地域も一体となって考えれば、いろんなアイデアが出てくると思うんですよ。

私はやっぱり、この多部制・単位制については、どうしてもやっぱり中心地に学校をつくっていただいて、大勢の子どもたちが有意義な学校生活ができるようにしていただくのが望ましいかなと思います。

確かにＪＲの沿線で、１区、２区の子どもたちが共有できる場所、それが坂城だとすれば、ほんとに坂城って集まるんだろかなという感じもしますね。それは学校の魅力だとか、カリキュラムの魅力だとか、いろんな要因があるのかもしれませんが、将来のことを考えれば、私はやっぱりこの地域かなと思っています。この中心地に持ってくるのが望ましいと私は考えます。

（小山（壽）委員）

今の牧委員さんのお話はお話としてわかりますし、例えばダイエーの跡地を多部制・単位制の高校にというのは、アイデアとしては大変いいアイデアだと感じるわけですが、推進委員会の議論そのものが一定の枠組みの中で行われているのではないかと思います。

その枠組みというのは、新たに多部制・単位制高校をどこかにつくることが、その枠組みの中に入るのかと。それは枠組みから外れてしまうのではないかと思います。もしわれわれが受けた大枠というのは、あくまでも既設校を多部制・単位制高校に転換するというものであったのではないかとあって、前回議会資料をいただいたわけですが、議会資料を読ませていただいても、従来ここで教育委員会からお答えいただいている、そういう筋の中で議会答弁がなされている。

議会は、県民の代表としてさまざまな議員さんが活動されているわけですので、その議員さんに対して教育委員会が答えている、その部分を、推進委員会で越えて決定できるのかということを、ひとつは疑問に思います。

それから当然それはさまざまな議論の経緯の中で、さまざまな意見が出てくるということとは、一向に差し支えないし、その議論をしてはいけないということは、もちろんないわ

けです。

もうひとつですが、例えば私は太田フレックス高校を視察したわけですが、太田フレックス高校の位置というのは、決して太田市内の中心部ではない。むしろ太田市が大きく、町村合併して拡大していく中で、太田市に繰り入れられた。そういうような地区になっている。

ただし、私鉄の駅の近くにある。それで、あの太田フレックス高校につきましては、既設校を転換している。現在第1年目である。その校舎には、2年生、3年生の女子生徒がともに生活をしているという実態がある。

ただし、あの太田フレックス高校を見ていて、人数そのものについて言えばごらんになった委員さんたちが大勢いるわけですが、非常に少人数の授業が行われていました。施設設備についても、別棟につくられていまして、今の在校生とは基本的に言うと、別の棟の校舎で授業を行っている。

ただお話の中では、理科だとか、あるいは家庭科、そういうような実験実習を伴うようなものについては、随時従来の古い校舎も使わせてもらっているというような話でお聞きしたわけで、既設校を多部制・単位制に転換していくというのは、非常に無理であるという印象は、太田フレックス高校を見る限りは受けてこなかった。

ただし、かなりのお金をかけた学校であるとは思っているし、教員も相当数が配置されなければ、あれだけ少人数で授業をやるということは不可能であります。小さい教室では、ほんとに5、6人くらい、あるいは大きいところでも20人弱で授業を受けている。90分の授業でありながら、かなり生徒が集中して授業をやっている様子が見受けられると、私は思います。

そういう視察からするならば、そういうことが可能であろうと。しかし可能ではあるけれども、相当の金をかけてやっていかなければ難しい面も出てくるのではないかと思います。

(若麻績委員)

私も今回の高等改革プランの中での大きな目玉として、この多部制・単位制高校の設置というのは、公立高校の役割としてやっていくべきだと思っています。そして都市部あるいは長野市内という話が出ております中で、前回もこの長野周辺須坂を含めた議論をしたかどうかという議論もあったかと思っております。

考えてみるに、やはり交通の利便性はもちろん理解をした上で、長野市内はいいと思うし、須坂もいいと思うんですが、現実にはやはり難しい。それをどこを転換するかということになると、さまざまなバランスが働いている部分と思っております。

また須坂というのはやはり、電鉄1本になりますので、なかなか交通の便がすべていいというような感覚にはなり得ないかなという気もします。

それから、今回のこの改革プランの中での多部制の設置ですが、やはり県教委案は定時制の維持、中野に1校、それから長野市内北部に2校の維持と、合わせて上田市内の定時制についても統合するという、通学区をまたいでの提案になっています。

つまり第2通学区のほうも、非常に注視すべきですが、そこはここでは検討できませんので、その状況を見るという中の判断として、やはりそういう総合的な感覚からすると、

今、現在の提案されている屋代南とそれから坂城の２校で、まずは考えてみるのがひとつかなということと、その先で、この多部制・単位制がやはり学校として魅力が高いという評価を得られるような学校づくりをしていただいて、もう１校北といいますか、都市部に設置できるようなことだって、じゅうぶんに考え得るんじゃないかと思います。

ですので第１段階、第２段階ある中で、まず第１通学区の中で現在の学校名の中での検討を進めていくということが必要かと思います。

（塚田委員）

前回も全く同じ意見を述べさせていただきましたが、私も松本筑摩を見させていただいて、全日制と多部制・単位制が一緒ということで、校長先生のお話だと、どうしてもやっぱり全日制と多部制・単位制の生徒が融合ということは非常に難しいと。学校の目標としては掲げているが、現実問題として生徒同士の交流は全くなく逆に言うと、全日制とそういった制度やシステムが混在していることは、どうもちょっと現実問題としてうまくないのではないかとこのことを言っておられました。

今の全日制の中に定時制のある学校の話聞いてみても、やはり定時制の生徒たちと全日制の生徒たちの交流ということは、非常に難しいという現実を踏まえると、やはり先ほど来出ている、定時制の充実から多部制・単位制というようなことは、ちょっと難しいと思います。逆に、やはり１校丸々多部制・単位制にして、多部制・単位制は非常に魅力のある制度と私は取っていいですが、そういう意味では１校丸々多部制・単位制という学校をつくっていったほうが良いと思います。

それから都市部ということは、理論上よくわかりますし、そのとおりだと思うんですが、今現実問題として、具体的名前を挙げるのができないとすると、今、若麻績さんが言われたように、時にといった言い方は失礼かもしれませんが、やはり今挙がっている屋代南、それから坂城のどちらかで考えて行かざるを得ないんじゃないかなと思います。

それから松本を見たときに、聞いたときに、遠い子は高速バスを使って伊那から通っているというようなことも聞いたんですよ。要は必要があれば、どんな遠くからでも。それは苦労しないで通学できるに越したことはないと思いますが、それはかなり特殊な例かもしれませんが、必要とする生徒たちは通ってくるということなもので、利便性を考えてやる必要は当然のことですが、やはり必要とする子どもたちは通って来るとしますので、現実問題として都市部の学校を名前を挙げて検討することができなということならば、現状挙がっている坂城と屋代南で検討していくことがいいのではないかと思います。

（中村委員長）

今、推進委員会の枠組みの話から始まりまして、やはり独立校舎で転換で多部制・単位制を導入する、多部制・単位制には魅力があるというようなご意見をいただいておりますが、ほかにいかがでしょうか。

(丸山委員)

今のその話の中で、枠組みという話がありましたが、前から私も言っているように、それは形式上はそうですよ。これは削減の数の問題もそうですよね。ただこれは、県教委が、この推進委員会にこういうことを検討してくださいと出したわけですよ。

検討委員会の中の流れで見ると、それは推進委員会をつくった以上は、推進委員会というのは地域の実情を確かめながら、それが実際にできるかという具体的な話に入っているわけですよ。その検討委員会から県教委の流れというのは、これはまだ具体的な話じゃないわけですよ。

つまり具体的な話が出てきて、初めていろんな地域からの意見も出たり、反発も出たり、対案も出たりしているわけです。そういう点でいけば、推進委員会をつくったということは、推進委員会ではある程度現実的にどうかという場合に、その枠組みを超えることだであると、それは、枠組みを大きく変えるわけじゃないわけで、全然、全部を否定するわけでもないですしね。

そういう点では、枠組みということになったら、ここではその地域の声を聞きながらなんてことはできないですよ。枠組みどおりにオーケーと言うしかないんじゃないですか。だからその枠組みと言われると、形式論としてはそうですが、ならば推進委員会で議論する意味がなくなってしまう。推進委員会で1年間近くも議論してきているのは、地域の意見を聞きながらということをも前提にやっているし、県教委も多分地域の意見を聞きながらということで、つまり地域に見合った、各学区ごとに見合った検討してほしいということで、枠組みは出したが、その枠組みを基本にしながら、それよりもこういう方法があるということもあれば、ということだと思うんですよ。

だからあまり枠組みになると、ここで議論する意味がなくなってしまう気がします。

それから、長野地区というのが幾つも出ていますが、私はさっき言った、代案がダメだといういい方ですが、皆さんからダメだと言われたけど。定時制にそういう要素を入れてと言っているんですが、私も含めて長野地区と言っているわれわれが、長野地区の学校を出せないという問題は、いったい何かということですよ。

ここは、ちょっと深刻に考えないといけないと思いますよ。では、どこ変えろということができるかということですよ。それはなぜかと言えば、旧長野地区の学校は、みんなそれぞれの、言い方はおかしいけどトップといいますか、典型的な学校なんですよ、みんな、ほとんど。商業も工業も、それから進学校もという意味を含めて考えると。

そういうところだから、なかなか出せないということだと思います。それからもうひとつ、駅から遠いという位置関係もあるかもしれませんが。そういうことで言うと、やっぱり現実的なことを考えるべきだ。それから、定時制と全日制が一緒になかなかできないというのは、そのとおりだと思います。

ただそれは、交流ができないというのは、なかなか定時制に行く子たちが、全日制の生徒がいる中で、なかなか通学できないということはあるかもしれませんがね。だからそこは、無理やりいろんな形で、行事や文化祭とか、いろんなことでも交流をやっているわけですよ。ただやっぱり全日制の生徒がいる中で、その時間帯に定時制の、要するに多部制・単位制の場合定時制ですから、定時制の子が行けないという部分だと思うんですよ。

だからそこは、ある程度そこは、そういうことはあっても午後部を付けて、夜部を付け

てというようなことで。一番の多部制・単位制のメリットは、やっぱり単位制で、それで3年間で卒業できると、定時制でも。そういうところだと思うんですよ。

だからそういう点でいくと、やっぱりもう一遍現実的な議論をしたほうがいいのではないかと思います。

(中村委員長)

多部制・単位制がすべてが不登校生との受け入れということではないと思うんですね。もっと重要な役割。今、丸山委員がご指摘いただいたように、学びの多様化に合わせていろいろなコース、コースと言いますか勉強の仕方がある。それに応じて昼間あるいは夜間、両方どちらでも選べるし、いろいろな単位を取って時間をかけても卒業できる。そのところが、一番魅力だと思いますね。

ですから現実問題で、長野市内の高校が転換が無理であれば、当然その近くに設置すべき、転換すべきと考えますし、候補案では上田地区との関係も示されていますから、少し南によってもいいと考えられますよね。

それで、今挙がっているのが坂城と屋代南ということで、両方とも交通の利便性は大丈夫であろうと。現実問題ということで考えれば、やはりその2校でご議論いただいて課題を挙げていただきたい。それから転換したときの魅力が増すのかといったところを、議論いただきたいと思います。

独立校舎に関しては、もう何度もいろんな場面で出てきています。統合した普通科の全日制の高校も、どこか別に建てればそれほど問題ないのではないかなというご意見も、たぶんあるかと思います。

でもそれはやはり、生徒数の減少から財政の問題が出てきている。それから財政が一番先頭で議論してきたわけではありませんが、どうしてもそこを考えなければいけないということであれば、新設校というのがなかなか難しいのは、もう議論するまでもない。それが枠組みだと私は思います。

再編がスタートしたときの、その理由のところはもうかなりの議論をいただいて、戻りようがないんじゃないかと思いますので、現実問題ということであれば2校の課題について出していただいて、そこで一定の方向が得られれば、推進委員会の結論にしていきたいと思います。

もちろん、ほかの意見を否定するわけではございませんが。

(牧 委員)

先ほど小山先生からお話があったように、あくまでも既存校の活用を前提に進めるわけですね。この委員会で、最終的に校名も全部出すのですか、そこまで決めるのですか。その辺を委員長として教えてください。

(中村委員長)

委員長としてですか。何度も尋ねられているので、もう決まったお答えしかできませんが、この推進委員会が任された議論というのは、魅力ある高等学校づくりが1点目。それから、総数の決定基準に基づく県立高校の再編整備、それから総合学科高校および多部制・

単位制の高校の配置ですね。それと、その他、この４点です。

ですから、これを最初に全部われわれが案として挙げると。総数の決定基準で、削減数が、枠組みが決まっています。これは守っていきたいと思いますが、守ろうとしたときに具体的な校名を挙げられるかと言えば、多分今までの１５回目の議論まで含めると、まず無理ではないかと思います。

かなり最近は少しずつ校名、あるいはその周辺の情報が、挙げていただいている委員さんにはありますが、それは議論がそこにある程度流れが向いているからです。最初には、多分無理だったと私は思います。

それで、そこに候補案を挙げていただいたわけで、それについて議論するのは当然の流れではないかと思います。その中で、流れの中で校名が挙がることは、これは大変いいことじゃないでしょうか。すべての高校が対象ですよ。

すべての高校が対象ですから、本当はどんどん気軽にという言い方はちょっとおかしいかもしれませんが、いろいろな案を出しながら、議論を進められればよかったわけですが、そうはいかないのはそれぞれのお立場があって、発言が慎重にならざるを得ない。それから１校の存続というのが、非常に大きな重い課題だからと思います。

ですので、名前が挙がった高校で議論をして、一定の方向を見いだしていく。ですから校名が報告書に載るのは当然必要なことだと思いますがほかの委員さん方も、ご意見をいただければよろしいかと思います。

（牧 委員）

これは、検討委員会で推進委員会に対して、「こういうことを議論してください、こういうことを推進してください」という案が出ましたよね。ですから、県で出ている学校名の出たひとつの案がありますが、私は既存の高校から、すべて活用するという、ひとつの提案ですけれども、現実問題としてやっぱりより良い学校、より良い地域の中で、どういう生徒を集められるかというようなことになれば、いろんな意見があっていいと思うんですよね。

ですからあまりその枠にはまらないで、論議したことを、最終的にどういう報告になるかわかりませんが、私は私の意見しかないんですけども、委員の集約として、やっぱり最終的な結論というか、校名まで出せないのであれば、そういう形で集約してもいいと思っていますよ。

ですから、「いや、それは違う」というのであれば、委員長さん、いろいろとまた議論していただければいいと思いますが、その辺がちょっとよくわからないのですが。

（中村委員長）

あいまいなのは、議論がしてないからだと思いますが、例えばこの推進委員会の報告書に多部制・単位制はここに配置するというような一文を入れるかどうかという、牧委員のご心配はそういうところでしょうか。

それに関しては、推進委員会の皆さんの意見がそちらの方向に向いていて、当然反対もあるでしょうし、異論もあるかとは思いますが、大方がその方向であれば、その一文は入ると思います。

ただしそこに、「こういうことに配慮したほうがよい」とか、そういうことは付け加える可能性はありますよね。議論というのは、多数決できちっと決めればすむかということ、そうではないと私は思います。民主主義は多数決で、数が多いほうというのは、ちょっと若いというか、まだ幼い民主主義じゃないかなと思いますが、大方の方が意見を出し尽くして、そちらの方向に向いていれば、それで報告書は書いていける。

それを実施するときは別ですよ。やはり実施計画を立てるときは、これは県の教育委員会が責任を持って、校名をきちんと決めてやらなければいけないわけですから、それに対するわれわれは答申になるのか、意見書になるのかよくわかりませんが、その報告書ですね。報告書には、委員の大方の意見はこちらの方向でまとまった、あるいはまとまりつつあるという方向でもよろしいんじゃないかと思います。時間がもし必要ならば。

私ばかりしゃべらないで、意見を言っていただきたいのですが、委員長が決めろと言われれば、そりゃ決めますけど、それは皆さんの合意とはいかないと思いますので、お願いします。

（中沢委員）

教育委員会から、推進委員会に出された課題というのは、そのひとつの範囲があるんだと思っています。

今、坂城高校と屋代南ということで、私が重々申し上げているのは、長野市内にもあるんじゃないかというようなこと。そうすべきだという話もしたわけですが、たまたま皆さんのお話を聞いていても、そういう市街地にあることが、よりベターだというけれども、しかし現実の問題として「これ」というところはないということは、公開の席であるから言えないのか。

あるいはこういう会議というものが、ある一部は委員だけで、本当の話をする場があってしかるべきだなと、そういうことを踏まえて、そして地になる議論していかないと、みんな遠慮でだんだん「カタツムリ」になって引いていってしまうということにもつながるもので、そういった中から、それでもこの前私が言いましたように、多部制・単位制ということになれば、例えばこの前長野南、あるいは松代、あるいは篠ノ井のほうもあるんじゃないか、どこかもあるんじゃないかということを、それぞれ点検しておいて、いろいろ論議することが大事であって、アバウトで大きな枠の中で、長野市では難しいということで、この坂城と屋代南と限定することはいかがかと思います。

その前に、もっと胸襟を開いた、そういうことの場合があって、それがために一部話を委員だけにさせていただくということもあってしかるべきだなと、このように思いますがいかがなものでしょう。

（中村委員長）

第二推進委員会も同じような流れで、そういうご提案があって、非公開という結論に至ったわけですが、私は非公開に関しては、ちょっと後ろ向きに考えざるを得ないのですが、結局委員さんで集まって検討して、何か別の名前が自由に挙げられることは可能だと思いますが、じゅうぶん議論を尽くしたとしますね。

それがもし、ある特定の名前の高校がそこからぽっと出てきますと、誰が発言したのか

という犯人捜しになって、これはもう避けられないですから、そこまで考えるとたして公開で発言しようが、非公開で発言しようが、あまり変わらないのではないかなという気持ちもあります。

それはもっと、われわれの役目はもっと違うところにあります。システムとして再編を考えて、この辺の配置がいいんじゃないかと。それに対して決定していく、この流れというのは公開の場で、皆さんに見ていただくと、あるいは報道関係者もいらっしゃいますから、その上で挙がってきた校名ですから、誰がいけないとかそういう話ではないと思いますので、公開の場でもじゅうぶん、それが本当に正しい方向で、良い方向だとお考えならば、中沢委員もされたように、名前が挙がってくると思います。

それでよろしいんじゃないでしょうか。なかなかハードルは高いかもしれませんが、気軽に発言するという言い方は、ちょっと誤解を招くかもしれませんが、第二推進委員会では「軽く」発言出てきていました。

例えば2校を統合して、空いた校舎のほうを多部制・単位制にするというような発言ですね。それは具体的な校名が挙がって、発言がありましたが、それほど強くは取り上げられませんでした。そういう推進委員会の中にも、すべて重い発言としてとらえるところではなくて、そういうアイデアもあるのかといった発言も可能かと思います。

ただし結論は、それは十分そこを議論しなければいけないと思いますが、お立場はわかりますが、どうでしょうか、非公開ということとは。

（丸山委員）

私も非公開は、あまり賛成できません。私が名前を挙げられないのは、もうはっきりしています。それはひとつの学校をつぶすことになるからです。それはやっぱり挙げられません。非公開の話が出ちゃっているのではっきり言いますが、長野地区が挙げられないのは、長野地区の学校がそれぞれ伝統というか、特色というか、そういうものの中での代表的な学校であるから挙げられないんですよ。

私もそうですよ、はっきり言って。そうじゃない学校が、今度候補案に挙がっているわけですよ。はっきり言いますが、中野高校もそうです。そういう学校をつぶすという流れになっているわけですよ。みんな県民は、そう思っています。だから言えないんで、それは非公開になったって私は言えませぬ。

だからそういう意味で私は現実的。確かにいろんな問題がありますが、どっち取っても問題があるわけですよ。独立校舎はダメだと。それは枠をはみ出しちゃうと。それから新しい施設を使うとしても、グラウンドがないじゃないかと。みんなそれぞれ問題があるわけですよ。だからどっちの問題も我慢をして、現実的な論戦に入るかということだと思ふんですよ。

だからそういう点で言ったら、名前が挙がらないから、今までに名前の出ている坂城と屋代はどうかと言ったら、やっぱりそれは2通との関係もあって、私はやっぱり端っこ過ぎると思いますし、交通の便は必ずしもよくないし、さっき言ったとおりです。交通の便というのは北信濃からの関係でよくないということです。

多部制・単位制というのは、定時制じゃなくて多部制・単位制に行くという子が行くんじゃないですかね。そういう点で言ったら、やっぱり非公開でやる、名前を挙げるという



ても、非公開、公開だから名前が挙がらないという問題じゃないと思います。

（中村委員長）

推進委員会は、つぶす議論は一切しておりませんので、統廃合に関しての議論をしています。誤解していただかないように。

（中沢委員）

先ほどからの議論の中で、ほとんどの皆さんが市街地がいいと。そういうふうにも認め合いながら議論が、例えば坂城、屋代南ということに絞られるとすれば、そこにひとつの矛盾があると思います。

長野市内だから、すべてトップクラスの高校というような位置付けをすれば、じゃあ今度の多部制・単位制はそうじゃないところが担うのかということに向かって、教育の面から言えば、ちょっとその理論も問題があるなと思います。

ただ言いたかったことは、みんなが多部制・単位制について真剣に考え、市街地と言っているんだから、この場で言えないとすれば、そういう方法もひとつあるんじゃないかと提案しているので、そういう、非公開にしてもこれ以上出ないわということであって、その上での検討はいいけれども、もう少し市街地がいいと言うんだったら、皆さん少し2、3出してもらわないと、議論が先へ進まないなと、こんなふうに思うんです。

（中村委員長）

非公開に関しては、継続で審議でよろしいですか。

（中沢委員）

ですから、私は非公開にすれば何とか出るかなというんで、皆さんが出ないと言うならこの場で、その市街地にどうだということをもう一度ひとつずつ確認しあっていきたいなと、こういうことです。

（中村委員長）

市街地の定義も、多分いろいろあるかとおもいますが、商店街があって活発に商業活動が行われている、そういう現実的なものもあるでしょうし、長野市が町の大きさという面で言えば大きいかもしれませんが、屋代も坂城も市街地はあるわけですね。

交通の便も考えて、どのくらいの規模の市街地かということであれば、例えば屋代南に多部制・単位制を配置したときに、市街地としての魅力もあるのではないかと。あるいは、それでは市街地としての魅力はないと。坂城では困る、ということであれば、それはもう坂城も屋代南も、市街地の候補から落ちると思うんですね。

だから長野市が絶対的に必要かということ、そうではないんじゃないでしょうか。人口がむしろ多過ぎて、そんなに必要ない。多部制・単位制高校ひとつのために、そんな人口は必要ないということであれば、別のところでも交通の便がよくて、市街地でもいいかもしれません。

先ほど屋代南高の存続要望書を手渡されたばかりで申し訳ないのですが、屋代の駅前か

らの商店街というのは非常に明るくて、電線も地中化されていて、立派な町並みになっていきますよね。これを市街地というのかどうか、言わないというのがおかしいと思いますよね。そこは市街地だと私は思いますが。

どうでしょうか。それでは、やはり名前を挙げられないから、非公開も考えると言いましても、もう議論する日程がないような気もしますが。報告書の文面を検討しながら、同時に多部制・単位制の議論を、もっと深めるということも可能かと思いますので、あときょうを含めれば3回ありますので、突然非公開というのは皆さんにご迷惑をかけますので、次回非公開という案だと思いますが、そういうことでちょっとご意見をいただきたいと思います。

委員長としては、非公開にしてもあまり変わらないと思います。また余計な議論を巻き起こすような気もしますが、特になければ、このまま初志貫徹でいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。役割としては、校名を挙げて責められるべき話ではないので、ほんとは自由に挙げたいところですが、やはりお立場というのもあります。それは重々承知しております。個人の責任という話ではないと思います。

それではこのまま、非公開という議論は打ち切らせていただきますがよろしいでしょうか。

(市川委員)

今の議論、ほとんどよろしいのですが、ただ高校を新しく出されたときに、その出された高校に関係されていない方ばかりだとすると、やっぱりそれはちょっと不公平じゃないかなということもあるんですね。その辺、非常に難しいので、その辺はやっぱりわれわれは気を使って討論しないと、非常にそのところの地域なり、その方に問題が出てくるんじゃないかと思います。

例えば今回の屋代南という問題も、この中に直接に関係された方もいらっしゃるし、いらっしゃる方が多いかもしれませんが、やっぱりその辺はわれわれもちょっと、しっかり見ていかないと判断を間違うんじゃないかなという気がするんですが、その辺は気遣うべきじゃないかと思うんです。

(中村委員長)

委員が、地域を代表していないのは、もうこれは最初からわかっておりますし、高校を代表しているわけでももちろんありませんので、全体を考えてご議論をいただいてきたスタンスはずっと守ってこられたと思います。

それから第11回のときには、団体や地域や高校の同窓会さん等、各種、そういうグループからの意見発表をいただいて、質疑応答という形で議論いたしましたので、公平に意見聴取はしていると思います。

ここで各高校の擁護をする発言、例えば出身校の方もいらっしゃるでしょうし、そういう擁護する発言というのがあったとしても、流れの中から考えれば、そこに多部制・単位制を配置するというような議論が、もしいろいろな魅力を考えて、関連を考えて必要であれば、それはそれでよろしいんじゃないでしょうか。それが議論だと思いますが。

第二推進委員会を傍聴させていただいて、非常に似たような状況でしたので、望月高校、

蓼科高校出身の方が、私はその出身ですけれどというような委員さんが、苦しい胸の内をお答えいただいていた。それは、ちゃんとシステムを考えていらしての発言だったと思います。委員としての役割を果たしていらっしゃるというふうに思いますが。

（森野副委員長）

いろいろな論議の中で、何かこう先に進みたいわけであります。そんな意味から、ちょっと申したいわけですが、私は前にも申し上げたんですが、皐月高校の存在というものはいかなるものですかね。19年度、2部制で総合学科ということで存続するわけです。

そうしますと、今の問題に絡んできますが、結局多部制・単位制、これは県立と市立で競合するんでなくて、もう皐月にお任せ、しばらくお任せして、様子を見ると。そして現在ある定時制を充実させていくと。結局、高校は義務制じゃないので、進学したいというものが進めばいいわけです。そこまでわれわれ論議することがあるのかどうか。

ですから定時制の場合は、そこに上がるから学べるわけですね。皐月の場合、遠方からも見えるでしょうし、学びたいから来るわけですね。ですから定時制の性格というものと、やはり多部制・単位制、若干違うように私は思います。

本当に学ぼうとすれば、私の近くにも、音楽科のある小諸へ行った子がいるんですよ。朝6時半です。それで小諸まで信越線で行きまして、帰りは最終ですよ。10時になっちゃうんですよ。そういう子が3年間通いましたよ。そして今、音大へ行っていますが、そのときやはりやる気のある子が学ぶ、そういうシステムじゃないと何かこう、沼へはまったような子どもが多くなっていくんじゃないかなと、そんなことも懸念されるわけですし、ですからこれはいかなるものでしょうかね。

ちょっと皐月と絡めた考えだと、県では問題かと思いますが、私がとっさに思い付いたもので。ですからこれは、いつまで議論してもしょうがないと思う。風船玉のように片方つつけば、片方膨らむわけですし、お互いに痛み分けと言いましょか、何か方策を考えないと、このまま時間が経過するだけの様な気がしますので、ちょっと折衷案みたいでございまして申し上げます。

（中村委員長）

皐月高校に関しては、総合学科高校で行くというのがもう決定して、建物の設計まで進んでいると、私は長野市の教育長にじかに聞きました。例えば建設の位置を、これからどうするかとかという、そういう議論はもう一切すんでおりますので、ここの推進委員会で皐月高校の配置等議論すべきでもないし、また別の組織ですから、それはあまり意味がないことですし、再編整備候補案のところには、皐月高校の配置も考えて中野方面という、総合学科高校の取り扱いが載っております。

それは総合学科高校に関しては、この委員会では一定の方向をもう得ていると思いますので、そこを絡めますとまた複雑に議論が戻ってしまうような気がしますが。やはり地域の皆さんが納得して、提案を前向きにご判断いただいて、候補案のことですが、候補案を前向きにご判断いただいて、あるいはもっと前からご検討いただいて、再編整備のこの計画の中に、議論も同調していただいて、地域でも納得いただいて、飯山地区、中野地区というのは、もう進んでいると考えます。

それで推進委員会でも、それについて議論をしましたし、ここ独自のご意見も幾つかいただきながら、方向性はある程度決まっているというふうに思います。あと残っているのは、ですから3区の一部がまだちょっとあるかなというのと、4区がきょう集中的に議論にいただきたいところですが、森野委員、いかがでしょうか。あまりまた、元に戻ると余計複雑になってしまいますので。

（森野副委員長）

ですから、県と市立が競り合うんじゃないくて、今ここまで進んできておりますから。それで市街地ということで、設置校がまだ決まらないわけでしょ。それならばということで申し上げたのですが。

（小山（壽）委員）

誤解がある。皐月は総合学科であって、多部制・単位制ではありません。

（森野副委員長）

でも、2部制ですよ。

（小山（壽）委員）

違うんですよ。

前期後期の2期になっている、3学期制じゃなくて、2期制でやる。

（森野副委員長）

2期制で。

（小山（壽）委員）

それで、多部制・単位制では全くない。総合学科は単位制ですから、単位制にはなりません。ちょっとそここのところの誤解がある。

（森野副委員長）

なるほど、なるほど。

はい、ありがとうございます。

（中村委員長）

事務局、お願いします。

（吉江高校教育課長）

今、小山委員さんからもお話がございましたが、私どもが長野市の教育委員会から聞いているお話ですと、平成20年度から新たな、今お話がございましたように総合学科高校として、いわゆる3学期制じゃなくて2学期制ということの全日制で開設したいということで聞いております。

それでそもそも論で申し上げますと、市町村立の学校というのは、本来その市町村をエリアにしているというのが大前提でございます。だからといってイコールではございませんけれど、そんな点で考えて、また設置者も違いますので、全く連携をしていないというわけではございませんが、その辺の動きを承知しつつ、さりとて私どもと競合しないような形でという前提で考えているということで、ご理解をいただきたいと思っています。

ですから多部制・単位制に類するものではないということで、まずはご理解いただきたいと思います。それとちょっと事務局のほうでご発言等の要請がなかったものですから、取りあえず私どものほうで拝聴させていただいておりまして、実はこの推進委員会におきましては、第2回目、3回目、7回目、8回目と多部制・単位制につきましては、非常に議論が何度もされていたという感があるかと考えております。

それでその感の中では、例えば長野市内へ設置したらどうかということにつきましても、現実問題としてなかなか難しいというようなご発言があったりして、ちょっと間が空きまして、さらに言いますと第1区、あるいは第2区、あるいは第3区につきましても、それぞれの非常に伝統のある、それぞれの私どもとすれば大事な学校の議論をしていただいて、その上でおおむねの方向付けをしてきていただいて、今4区の議論をいただいていると思います。

ですからでき得れば、今までの多部制・単位制についての議論を、しっかり踏まえていただいて、どんなやり方がさらにいいのかというのはもちろんあるかと思いますが、それぞれの委員さまにおかれましても、私どもそれぞれの地域の代表とか、そういうお立場でお願いしているわけではなく、第1通学区全般を見ていただいた上で、ぜひ議論をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

（中村委員長）

多部制・単位制の配置の全体的な議論は、非常に何回も出てきて、復習の面でこの前回と今回と、ご議論いただいているという位置付けだと思いますが、具体的にまだ校名を挙げて課題等議論しておかないといけないと思います。それはやはり、候補案に挙がっている名前、それから対案として出てきた名前、それからもっともし出るかもしれませんが、それに対して課題を検討しておくべきだと思います。

再三申し上げて申し訳ないですが、その上で、そこに配置することが問題であるという結論に至れば、それで議論はひとつの一定の方向を見いだしたというふうに思いますけれどもいかがでしょうか。

そこからまた戻ることもあろうかと思いますが、今挙がっていることに関してご検討いただきたい。

（清水委員）

ただいまの委員長さんのおっしゃることは、よく理解しているつもりですが、先ほど来ずっと議論されている中で、今、現にこの多部制・単位制について挙がっている高校名というのは2校だけですよ。この2校について、当面これを基準に議論をしていこうというお考えも、当然理解はできますが、これはやはり一応年度内に方向性をという、一応めどといたしますか目標があるからこそそういった話になってくるのではないかなと思うので

す。

何が言いたいかというと、やはりこの2校に絞ってどちらかにするかを決めていくということについては、私は反対です。先ほど話の中に出ました、その枠組みというものと、それから報告の仕方ですね。この2点についてはやはりもうちょっとはっきりと委員長さんのほうからお示しいただきたい部分だなと私は思っていますが、枠組みについて県教委から示された、われわれに課せられた問題というもののの中で、一応たたき台があるわけですが、これは先ほどの丸山委員さんの話にも関連するのですが、どこまで逸脱してもいいものかということが、われわれは判断できませんが、例えばこの多部制・単位制をどこかに配置するんだということを前提に話をしているのか、その辺が私は疑問です。

私は終始一貫、多部制をこの19年度スタートの時点で、どこかに学校に丸ごと1校変えて、多部制・単位制の高校をつくるということは、絶対私は無理だと前から思っております。ですから、方向性というものでいろんな意見が2つ、3つあったものでとどまった方向性、とどまった報告書という形になることもあり得ますが、やはりその中にはどういった形であろうと多部制・単位制をどこかの高校を変換して、多部制・単位制の高校にするということには反対だという意見は載せていただきたいと思っているのです。

その枠組みというものが、あくまでも校名を1校選んで、きっちりの形で先ほど牧さんが質問されたような内容ですが、1校選ぶということではなくても、最終的にこういった議論があって、2つ、3つ、こういった話の向きが3つに分かれたんだというようなことでもよろしいのでしょうか。

それであと、もう1点ですね。先ほど委員長さん、ちらっとおっしゃいましたが、3回というようなお話、委員会ですね。そこら辺についても、ちょっとご説明いただきたいのですが。

（中村委員長）

きょうを含めると、1月中旬までと考えると3回が限度だということですね。皆さんでお考えいただいてよろしいかと思いますが、推進委員会は12月末までに一定の方向で報告をという、最初の役割、枠組みがあります。

事務局等のご発言から、初中旬までには、遅くとも初中旬までにはと考えると、1週間に一遍のペースで、この12月やってきていますので、1月を考えると、あと最大できょうを入れて3回かなという、そういうことです。決めたわけではございませんが。

それは今回、そのように申し上げただけじゃなくて、前から1月にずれ込むんではないか、報告書のまとめということで、発言しているつもりですが、ちょっと回数に関しては、はっきり言い過ぎたような気がします。

（清水委員）

わかりました。

(中村委員長)

あと2校に限って、そのどちらかに決めていくという議論を、皆さんにお願いしているわけではなくて、私は多部制・単位制に関していろんな課題を今まで挙げていただいて、魅力もある、課題もある、では現実的にどこに配置をしたらよいか。それで今2校挙がっていると。そこがダメならダメという結論を出さないといけないのでしょうか。それは…。

(清水委員)

ですから、今たまたま2校、県教委から示されたものと、ここの委員会の中で出てきた学校名と2校あるわけですが、先ほど塚田委員さんのほうからお話がありましたような、この2校について、まずは考えてみる必要があるんじゃないかということには、私はならないのではないかな思ったわけで、先ほど中沢委員さんがおっしゃったように、ある程度の意見として、交通の利便性の問題と、それから都市部という意見が何人かの委員さんのほうから出ていますよね。

ですが、それと屋代南にしても坂城にしても、それとは矛盾するというのは私は理解できるんですよ。ということならば、その矛盾をあえてひとつにする必要はないなというのが私の考えで、あるならばなおさらのこと現状ある定時制の高校を、多部制・単位制に移管していく努力をしていきながら、例えばひとつの定時制をモデルパターンとして指定して、進めていくというのはどうかという最終的に私の考えですがいかがでしょうか。

(中村委員長)

2校のどちらかを選べと言っているのではなくて、両方否定される可能性もあります。それから都市部という定義、私は言いましたが、屋代南、坂城、可能性はないのでしょうか。「ない」というご意見が多数を占めれば、それで議論は終わりだと思いますが。

(小山(壽)委員)

先ほども申し上げましたが、太田フレックス高校というのは、太田市にあります。太田市は非常に大きな町ではありますが、しかし太田フレックス高校のある場所については、必ずしもその太田市のど真ん中というわけではない。これは実際に視察に行ってみて見られた方は、どちらかと言えば太田市の周辺部である。そういう意味では、決して今名前の挙がっている屋代南や坂城のある位置と大きな違いはないと私は思います。

それからちょっとこの記憶は間違えですかね。ちょっと今、私も自分の予定表を見ながらいつごろ視察をしたのか、皆さん、あちらこちら行かれて、その後の推進委員会の中で多部制・単位制を設置するというような方向で話が進んだような気がしているのですが、今、多部制・単位制、また設置するかどうかという話になってきていまして、ちょっと記憶が、きちっとしたメモを持っていませんのでわからないのですが。

(中村委員長)

途中で、私は多部制・単位制に関しては、大方の方が魅力があったと言った途端に、別の意見がいっぱい出てきてしまったんで、ちょっとおかしいなとは思っていたのですが、確かに小山(壽)委員がおっしゃるとおり、配置するとなったと思います。魅力あると。

ただし、都市部がというような話で、そこで議論は分かれていたような気がしますけれど。

丸山委員は、もちろん一貫して定時制の充実ということで主張されていますが、その中には最初のころは少人数ということをおっしゃっていましたが、今はおっしゃらないですが、少人数は見学をした限りでは、もうじゅうぶん多部制・単位制の独立校舎でも実現できるという委員さんのご認識だと思いますが。

（小山（元）委員）

私も、太田フレックス高校の見学を、視察させていただいたところで、先ほど小山校長さんがおっしゃったように、確かそのすばらしい学校で、スペースはそれほどないが、非常に内容が充実して、今後だんだんと発展していくんだと。開校１年目だというようなお話で、スタートだったですが。

それを視察してきて、やはり本県にもこの学校のようなものが必要じゃないかということとは、私自身そう思っております。最初提示されましたように、働く生徒の学ぶ場、そしてまた不登校生徒が行きやすい、大事な居場所という、そういう場所の確保もしたい。やはり高校の退学者が多くなっている。その退学者の中からも、やはり行って学べる人たちもいるじゃないかと思えます。

そういういろいろな立場から大事に考えて、やはり少人数だからこそ学べるような、そういう雰囲気的大事にしていくなだと。先生と密着した、ほんとに取り組みの大事なところだと思います。

そこでわれわれは最初に県教委から、再編案が提示される前の最初の会議で渡された学校要覧を、全部私なりに見せていただいて、やはり大事なのは、前にも申し上げたわけですが、交通の利便性が一番大事なところであると、それで私なりに、旧長野市ですね。そしてまた、私自身考えたのは篠ノ井地区、そして須坂地区。これは候補に挙げて考えていく方向でもいいんじゃないかなと、私なりに考えたわけです。

その後県から再編案が出されてきて、現在討議しているんですが、この多部制・単位制高校は今後やっぱり大事にしていくな必要はあると思えますし、そういう学ぶ生徒たちの学ぶ環境というものを大事にしながら、今挙がっております坂城と屋代南の高校もひとつの候補としながらも、やはりまだほかにも全高校が候補になるわけですね。

そういう立場で、もうちょっと考えていく必要があると思うし、今挙がっております２つの高校につきまして、やはり地域のご支援で高校が成り立っているわけですから、地域の方々、そしてまたその学校の子どもたち、どう考えているのかということも大事にしながら、やはり議論していく必要があるのではないかと、そういう立場で申し上げたいです。

（森野副委員長）

ただいまの小山（元）委員さんと同意見でございますが、先ほど飯山のことでおっしゃいましたけど、太田フレックスですが、これは廃校になるという危機感があって、私は聞いてきたんですけど、そんな中で存続すると存続が危ぶまれる中で地域の合意を得ていったんだということでもあります。

だから地域の人たちが、長野県で言えば望月みたいな感じになったんでしょうかね。「学



校を残せ」ということで、この多部制を支持していったんではないかなと、そんなふうにするわけですし、現在の2校を見まして、受検者数を満たしておりますね。だから廃校の危険は、現在ないわけですよ。その辺がやや違うのかなとも思いますが、全体的にこの1区を見た場合に、6校廃校だと。現在3校が、ある程度の要求を満たしているかと思うんですよね。これは、6校というのは大きいですね。

ですからその、地域の高校が廃校になるというのは、大変なことをございまして、地域の活性化もできないわけでありまして、これは何とか時間的に延ばせるものなら先送りしていただいて、検討事項でお願いできないものか。やはり学校、私は、下限で2学級ということであるならば、この線で進めていただきたいと、そのように思うわけです。

(中村委員長)

ここでいったん休憩を取りたいと思います。

#### 【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは、委員さんおそろいですので、再開したいと思います。

引き続きお願いしたいのですが、私が2校、坂城と屋代南の課題、そこに多部制・単位制を配置する上での課題って、先ほどからずっと申し上げているのは、候補案に挙がっている、対案に挙がっているので検討しておかないといけないということで申し上げているので、どちらかに決めてくださいと言っているわけではなくて、議論をお願いしているわけです。

都市部という定義があいまいな点があります。都市というのは長野市でないといけないのかどうか、それも絡めて。先ほど太田フレックスのお話が出ておりましたので、大都会でなくてもいいはずですね。交通の利便性というのが優先されると思いますので。

例えば屋代南に多部制・単位制を配置したときに、上田方面からの通学等がちょっと坂城より遠くなる可能性はありますが、駅1つか2つでしょうか、そういった点で課題を挙げていただいて、これはどうしてもダメだということであれば、そこへの配置は委員会としては納得できないということになるかと思いますが、その辺でご議論いただきたいと思います。

(丸山委員)

あらためて考えてみると、坂城は最初のことから出ていたように、やはり1つの町に1つの高校という、そういうことからいうと、先ほど私が言ったように、そうは言っても1つの学校が転換するわけですから、つぶすんじゃないという話がありましたが、転換するわけですから、これはかなり問題があってこれは無理だと思います。

これは前からそういう意見が結構あったので、屋代南が出てきたと思いますね。それで、屋代南について私は地域的に言うと、やっぱりもう少し北信全体を考えたら、もう少し北のほう、あまり坂城と変わらないなら。河東線があるじゃないかという話がありますが、先ほど言ったとおりで、河東線は非常に不便です。そういう点で、多部制・単位制という

高校は、いろんな時間帯にいろんな生徒が行くということになるわけで、そういう点では、日に、特に昼間の路線が非常にまばらですよ。そういう点では、屋代南もそんなに交通の便がしなの鉄道以外はいいいわけではない。

だから北信の北部からも行けるということも含めて考えれば、都市部、市街地と言っているのは、やっぱり前から出ているように、交通が集中しているということだと思っんですよ。そうするとやっぱり長野市になるんですよ。

やっぱりあちこちから交通が集中しているところと。それはもうひとつは先ほど言いましたが、多分飯山や中野、須坂の生徒たちの中で、定時制に行く子、もちろんあると思います、夜間定時制に。そっちのほうがいいって言ってね。だけど多部制・単位制に行く子はまた違って、多部制・単位制に行く子もあると思うんです。これは多部制・単位制に行かなくても、定時制でいいやということにならないと思うんです。多部制・単位制に意味から言ったら。私も、本当は、完全にいいと思わないですが、いいとしたらですよ。

そのようになると、やはり北信の奥からも行けるような場所ということになれば、やっぱり幾つかの路線が集中している長野市。ところがそれがダメだということになれば、私が前から言っているような方向で、次善の策としてやっていく方向があるんじゃないかと、そういうまとめ方しかもうできないのではないのでしょうか。

これから新たに、新たな転換の学校が出たとしても、当然またその学校はどうするという話になって、すんなりと受け入れられないわけですから、そういう点ではもうここまで来ているということを言えば、そういう方向が一番現実的ではないか。

それからもうひとつは、2 通学区の多部制・単位制高校がどこに来るかという問題で、坂城と屋代南というのは、かなり変わる可能性がある。しなの鉄道沿線に2校あっていいのかなという気が、ちょっとするんですよ。そういうことも含めて考えると、先ほど言ったようなまとめの方向しかないのではないかと思います。

（中村委員長）

定時制が、多部制・単位制に代わり得ないという、そういう根拠でしょうか。そこからスタートしていらっしゃると思いますが、候補案では北信にも定時制は残るわけですね。

ですので、定時制を利用したい生徒さんにとっては、通うところなくなるわけではないというのは、基本的なスタンスだと思います。やはりそれでも、北のほうへということであれば、上田との関係が多分なくなってしまうと思います。

第2通学区で、どこに多部制を配置するかというのは、まだ混沌としていてよくわからない。推進委員会に、一度だけですが出ただけでよくわかりませんが、こちらの第1通学区で決めれば、向こうもそれに応じて決まるという可能性もあろうかと思います。

ほかにご意見はありますか。

（牧 委員）

再三で申し訳ないですが、学校再編というのはこれからも、どんどんまだ続くと思います。廃校というような話も出たのですが、学校再編に伴う再編ですよ。ですから統合という形が望ましいと思いますが、私はいずれにしても、群馬県の太田フレックス高校の話が出ましたが、それはひとつの例であって、さらに魅力あるより良い多部制・単位制の学

校を望むんであれば、私は再三言っているように長野市の中心市街地が望ましい。

それで、施設がないよ、学校がないよと、いろんな話が出ていますが、丸山先生からちょっとお話があったように、私も北信地区を見ますと、やっぱり飯山、中野、小布施、須坂。坂城まで通うのという話になると、非常に、午前の学校、午後の学校、夜の学校という形になって、あるいは単位制の関係になってくるのは、非常に通学の便を考えると、非常に不具合なところがあると思います。

JRの関係、電鉄の関係を考えると、やっぱり中心市街地がいいと。施設がないのであれば、じゃあ既存の今の高等学校、長野市内の中心市街地にある既存の高等学校で、ではそのように努力してできる学校がないのということですが、実際ないんですかね。丸山先生は伝統校だと。どこの学校も伝統校ですよ。地域校ですよ。

もうそんな時代じゃないですよ。伝統校、伝統校って、100年、150年は少ないかもしれない。もうほとんど200年ぐらいの学校になりつつありますよね。みんな伝統校だと思うのですよ。中心市街地の学校が、なぜできないのか。そこまでやっぱり突っ込んだ論議をする必要があると思うんですよ。中心地がよければ。私はいいと思っているんですよ。将来的にも。

きっと先生方だって、やっぱり市街地に住んでいるほうが、やっぱりいろんな面で便利だと思うし、先生も集める具合もいいと思うんですよ。いい先生を集めるにはやっぱり、そりゃ過疎よりも市街のほうがいいですよ。決して坂城は過疎でもないし、屋代も過疎ではないけど、それは交通の便がいいところがいいですよ。

やっぱり最大集約、どこが一番ベストか、どこが一番魅力ある学校ができるのかというのは、やっぱり中心地だと思うんです。現実的に、じゃあそういう今の既存の学校で受け入れ、あるいは改革をしてやれる学校があるかどうかですよ。やっぱりそこまで私は突っ込んでやる必要があると思う。

じゃあどこなのかというと、ちょっとその辺は私は教育委員会に委ねるほうがいいかなと思いますが、では今候補に挙がった名前の学校はどうするのですか。よく学校を知りませんので、何とも言えませんが、いずれにしても再編は進むと言うことを前提にして考えていただきたいと思います。

（中村委員長）

牧委員のご意見は、今挙がっている2校に関しては、多部制・単位制を導入することは難しいというか、問題があるということでしょうか。

（牧 委員）

ベストではないということです。

（中村委員長）

ベストではないというご発言ですか。

(丸山委員)

先ほど委員長さんがおっしゃったことにちょっとかかわって、もう少し補足説明をしますが、多部制・単位制がいいとしたら、それは午前、午後部があるということもあると思うのです。そうすると、例えば須坂や中野にいればの話を、私は出しているのですが、その子たちの中にも、夜の定時制じゃなくて、午前や午後に行きたいという子が出てくると思うんですよ。夜だったら定時制に行くんじゃないですか。わざわざ多部制じゃなくて

も。  
そうすると、多部制・単位制の良さを本当に生かすとしたら、やっぱり全地域から行けるところということになると思うんですよ。昼間、午前、午前部、午後部、夜も、全部それぞれ行けるところとなると思います。そういう意味で私は言っているので、定時制があるからいいということにはならない。だから定時制に、全部丸ごと変わるわけにはいかないという。

だから定時制はなくても、多部制・単位制がそれなりにあればいいということではないと思います。それがひとつです。だからこそ、どこからも通えるところが一番いいということ。

それからもうひとつは2通の問題ですが、2通の問題は委員長さんが言うのもわかるんですけど、そうするとどっちが消えるかみたいな、どっちが先に決めるかみたいな話になりますよね。

ほかの区のことを言っちゃいけないですが、野沢南はそのまま通るんですか。なかなか難しいんじゃないかなと思います。そうすると野沢南だったら、確かに県の候補案は野沢南だったら、しなの鉄道沿線で坂城という話が出てきているわけですよ。野沢南がダメになった場合、それがどこへ行くかによって。

そうするとさっき言ったように、もししなの鉄道沿線に2校ということになるわけで、そうするとどこかしなの鉄道沿線にできれば、あるいは望月でもいいかもしれませんが、そうすると上田のところは、それは行けるわけじゃないですか。それは、もちろん望月へ行くよりも坂城のほうが便利かもしれませんよ。

そういうことで言うと、2通学区のものがどこに行くかによって、やっぱりかなり違って来ることもあると思います。それはなぜかと言ったら、坂城を出したときに、坂城は2通との関係で一番いい場所だということが、県の説明なんですよ。

そうすると2通との関係は、じゃあどっちが先に決めるかみたいな、こっちが坂城に決めちゃったから、あるいは野沢南に決めちゃったから、屋代南に決めちゃったから、じゃあ向こうはもう少し向こうにするよとかいう話になるのかどうか。それはなかなか、この関連が難しいなと思うんですよ。

その代わりこの委員会でどうするかということは、2通学区にも影響するわけですよ。そういうところはどういうふうに考えているのか、ちょっとわからないんですけども。

(中村委員長)

2通のことは遠慮せずに、こちらでベストの方向を選べばよろしいかと思います。

(小山(壽)委員)

議論の前提が、ひとつは少子化という問題。それから財政、そういう前提の中で議論を進めているわけですから、100点満点の答案が書けるかということ言えば、100点満点の答案は難しいと私は思います。

こうあったらすばらしいなということで、100点満点でないからすべてもうダメだというふうにはならないだろうと思います。それから丸山委員さんの話を聞いていますと、多部制・単位制はすばらしいものであるとするならば、すべてから通ってこななければいけない、こういう話になりますよね。

結論は、しかしすべてから通えないんだから設置する理由がない。これもやはり議論としておかしいと思います。かつて、飯山地区について申し上げたことがあって、飯山地区の中学卒業生で今年度定時制へ行った生徒は1人だけです。飯山地区には定時制はありません。その1人は、中野地区の定時制へ進学しています。

飯山地区には、不登校生はいないのかと言えば、大勢いるわけです。それは全日制高校で引き受けているわけです。当然、すべての子に同じように、すべての選択肢を与えということとは難しい。当然地域、地域の条件の中で、ならばそういう生徒が来れば、そういう生徒も引き受けて、極力学校の中でそういう子たちを何とか生かしていこう、そういう子たちにもできるだけ彼にとって満足のいくような高校生活を送れるように努力しているというのがあるんです。

しかし、うまくいっているということではない。しかし、そういうような形でそれぞれの学校は取り組んでいるわけで、だから定時制がなかったら、もう不登校の子はどうにもなくなってしまうというような議論は、これはやはり現実ではない。確かに定時制高校には、不登校の子がかなり多く在籍はしている。やっぱりすべてが不登校であるわけではない。

だから全日制高校もかなり多く、不登校であった子たちを受け入れている。多部制・単位制がどこに設置されるにせよ、すべての地域のところから十全に通える、そこでなければダメなんだという話にはならない。太田フレックス高校の話は、太田フレックスは例外だと言われてしまえば、それはそういう話になるかもしれませんが、すべての鉄道の路線が太田フレックス高校のあるところに集中しているわけではない。ただ1本、鉄道が通っているだけです。

そこでも、それは今後数年見てないとわからないと言えそうですが、少なくとも今の段階では視察をされた方々は、結構いいではないかと思えるような教育活動が行われていた、そんなふうに思っています。

やはり、なかなか100点満点の答案が書けないという前提の中で、ものを考えてほしい。例えば現場の校長から言わせれば、どこか長野市内に、大量のお金をかけて新たに多部制・単位制をつくるというならば、私の学校の校舎は古いから、その修繕をしてほしいというような要求もしようによってはあると思います。どちらに比重がかかるかという問題がある。

(宮本委員)

利便性について話が出たわけですが、私自身は確かに多部制・単位制というのは魅力ある学校づくりのひとつだと思いますし、そのために利便性というか交通の便、大都市というのが大きな要素だということはわかりますが、ただ単にそれだけじゃなくて、やっぱり新しい学校というよりも、長野県としてもここに検討委員会の最終報告書がありますが、地域との結び付き、そして柔軟な教育課程というようなことを考えると、利便性だけで高校の配置についても議論していただく、できたらそういうことも考えてほしいと思います。

やはり新しい学校というよりも、伝統を引き継ぐ学校だってつくれるんじゃないかなと思いますし、もちろん今、現在普通科においても単位制を導入している学校もありますので、太田フレックス高校へ行ったときにも、ほとんどが定時制というか夜間部の生徒はあまりいませんでしたよね。昼間部の生徒が多くいましたので、普通科と教育課程のかかわりとか授業数だとか、それにはだいぶ時間があるかもしれませんが、そんなに違いはないような気がします。

もちろんこの前の話だったら、県の話でいくと、やはり特長を出すということも可能だという話もありましたし、この検討委員会の資料によりますとネットワーク化とか、非常に長野県らしい多部制・単位制ということがありますので、必ずしも利便性だけで生徒が集まるかということは、私は考えないと思います。

太田フレックス高校に視察に行った際、最後に私は質問しましたが、1年目、2年目、課題は何ですかと言ったときに、あそこの大きなホールで今後演劇をやりたいだとか、やはり特長を出さなければ、その場所に、大都会につくったとしても生徒は集まらないと思います。

現に4通の場合に、私の中学校においても、近い学校はたくさんあります。職業科もありますし、普通科もあります、進学校もありますし。しかしながら長野市や上田市へ行く生徒も、徐々に多くなっています。

従って必ずしも近いところへ行く生徒じゃなくて、やはり多部制・単位制においても地域との連携だとか、そういうことが魅力ある学校づくりというのが打ち出せるかということによって、やはり生徒が集まるのではないかと思います。

それだけじゃありませんので、配置の問題になると利便性というのも考えられると思いますが、やはりそれも考慮に入れて配置については考えてほしいなと思います。

(塚田委員)

今、宮本先生が言われたとおりだと思うんですね。先ほどの、前に小山先生からもあったように、多部制・単位制の学校というのは、いわゆる魅力ある高校のシステムのひとつじゃないかということは、この委員会で、かなり実際に皆さんご覧になって、思われて、そういう意見が多かったんじゃないかなと私の印象はそういうことなんです。

ですから、先ほど来報告書の話も出てきておりますが、やはり多部制・単位制の学校を設けるということは、魅力ある高校づくりということでは、ぜひ必要なことではないかなと私は思いますので、それはもちろん全員がそのとおりになって、今言われたように、定時制の充実ということですからむんだというご意見もあることはわかりますけれども、多部制・単位制というのは、やはりひとつ魅力ある高校づくりの中で重要なシステムのひとつ

じゃないかなと、私は思います。

それから議論を進めてもいいんじゃないか。それで私も先ほどから、現に名前が挙がっている屋代南と、坂城ということで検討したらいいんじゃないかなというふうな意見を申し上げました。

そこでちょっとお聞きしたいんですけど、これ、それぞれ先ほどの委員長さんのほうからも、ここにいらっしゃる委員の方々、地域の代表ということで来られているんじゃないということですが、たまたま坂城の町長さんがいらっしゃるんで、地域の、産業界との連携ということで、前もちょっと最初のころお話をいただいたのですが、その辺坂城高校と地元の産業界とのつながりみたいなものを、ちょっとお話しいただければありがたいと思うんですが。それによって、多部制・単位制にもし変わったときに、こういう弊害が出てくるとか、そういうものがあればちょっとお聞かせ願いたいのです。

（中沢委員）

2度、3度にわたって、坂城の高校のお話をしているんですけども、私自身こういった全体の中で少し遠慮しがちには申しているつもりでございます。

私が一番、坂城高校そのものというのは、普通高校でずっとやってきていると。そして坂城には1つしか普通高校がないと。しなの鉄道全体の中では、10キロに1校ずつ、必ず普通高校があるんですよ。普通高校を志す人は、70パーセント以上いるんですよ。そういうことでございまして、坂城がもし普通高校でなくなれば、その間というものは坂城の人たちは普通高校を追われることになりますよと。

従って普通高校をぜひ残したい。もちろん、坂城は工業の町でございます。また生徒たちも坂中とか、戸倉上山田中学から相当来ている。なおかつ4分の1は、上田地域の普通高校を志望する皆さんも受け入れていますよということで、これは何と言いますか、普通高校を残すべきだという前提に立っております。

多部制・単位制ということが、もし私どもに2つの高校があったならば、私は1つそのように近い将来、少子高齢化の大きな波の中では、必ずいろいろな面が出てくるからと思うんですけど、いかんせん、1つの高校という中では普通高校を残さざるを得ないし、そうすべきだと信じているところでございます。

（中村委員長）

坂城地区には普通高校が、全日制普通科が坂城しかないということが主張の根本になっていらっしゃるということですが、よろしいでしょうか、塚田委員。

（宮本委員）

普通高校という定義については、私ははっきりわからないのですが、私の意見としてもこの高校というわけではありません。普通科と職業科ならわかりますが、多部制はまた別で、単位制となると、やはり学年制と単位制なら対立するものですが、普通高校という意味合いのことについて考えると、それほど特長のあるものではないなと思います。普通高校でも単位制だって可能だし、必ずしも普通高校が特長があるという、また別の問題かなと思います。

私自身は、前回からも言っていますが、今後全国的に見ても単位制という形がこれから多くなるんじゃないかなと思いますし、現に前回の教育委員会の話だと、単位制に転換する高校についても検討が始まっているようなことを聞いていますが、やはり普通高校があるとか職業科があるとかというんじゃなくて、多部制は違いますけれども、普通科でも今後単位制というのが増えるんじゃないかなと思います。

中学を卒業する子どもたちも、普通科ということ自体に、普通科と職業科ならわかりますけれども、単位制や学年制について選択しているわけじゃないと思いますし、その辺のところは検討いただきたいなと思います。

（中村委員長）

ほかにございますでしょうか。

今、坂城の話題ですが、屋代南についても具体的にございましたらお願いします。

（市川委員）

多部制・単位制高校をつくるという前提で、屋代がいいか坂城がいいかと限定をした場合、こういう見方をしなきゃいけないと思うんです。確かに先ほど言ったように、都市部じゃなきゃいけないという議論もありますが、これは委員長がおっしゃったように坂城でも屋代でも同じだろうと、そういうふうに言ったとき、多部制・単位制高校に行きたい生徒はどこにいるかと考える必要もあるのではないかと思います。

そうすると、働きながら行きたい学生もいるし、ということを考えると、やっぱり屋代地区よりも坂城地区のほうが学生が多いのかな。これははっきり、私も言えませんが、そういう見方をして検討をする必要もあるんじゃないでしょうか。単に都市部がいいというだけではなくて、そこに行きたい生徒がどういうところにいるんだということを考えたら、坂城ということも私は選択肢の1つであろうと感じているんですが。

（中村委員長）

ほかにございますでしょうか。

（中沢委員）

そういった生徒がどこにいるかという議論の中で、それだったら長野市内のそういったところに、より生徒が多いんだからそこがいがなものかという、ひとつの発想が皆さんの中にあると思います。

生徒はそういうところに行き得ることが大事だと。ところが、そこになくするならば、周辺だという話になると、1区の中で一番南で端へ持って来るという理論がどうして生まれるのかなということに疑問があるわけです。

先ほど、坂城というところは上田地域あるいは千曲地域の間にあって、そこが1区、2区の調整的な場所であることは否定いたしません、1区の子どもたちは長野周辺に行く。そういう人たちのための学校という理論になると、やっぱりもう少し長野にということで、先ほどから私が長野にこだわっているのは、そういう意味でございます。

生徒がそこにいるんだということでございます。



(中村委員長)

多部制・単位制を多分一断面だけで見ると、議論がかみ合わないような気がします。定時制と、やはり昼間部と、それから単位制と、今、宮本委員が主張されたように何か全部を含んでいるという点を、総合的に判断しなければいけないのではないのでしょうか。

定時制だけで考えると、やはり配置も違ってきますし、単位制で考えると、また違ってきます。多部制・単位制高校というのは、もっと広い自由度の大きなものだと思いますが。

(清水委員)

いずれにしても、多部制・単位制の高校の良さというのは、ある程度この委員会ではお認めになっているという前提でいいと思っています。私も多部制・単位制の高校を現に見させていただいた上でも、魅力ある学校だなということは感じました。

それでこの多部制・単位制の学校はいいのですが、では今出ている坂城あるいは屋代南、それとあと利便性を優先にして、なるべく通いやすいところということだと思えます。

都市部か都市部じゃないかということの議論については、先ほど委員長さんがおっしゃったようにいろいろ感覚があるんで、決して屋代南周辺が都市部じゃないとも言いきれないし、ただやはり交通の利便性がいいということから言えば、やはり私個人の意見とすれば長野市がいいと思っています。

ただ先ほど、公開、非公開の話になったときに出了ましたが、皆さんが長野市内の高校のどこがいいかということ、ご自分の胸の中にしまっておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、私に限って言えばわかりません。案がありません。どこにしているのかというものが、公開であろうと、非公開であろうと、言えないのではなくわかりません。

そういうことからすれば、長野市に置くことがいいんじゃないかなということは、ひとつとしてありますが、先ほどからお話ししていますように、やはりどこかに多部制・単位制の学校をほかの高校を転換してつくるといって自体が無理なんじゃないかなというのが私の意見で、繰り返すようですが、現状の定時制をそういったものに発展的に充実させていくということのほうが、当面は一番すんなりいくというか、問題が一番少なくてすむのではないかとと思っています。

丸々1校、多部制・単位制に変えるということは、もちろん多部制・単位制の良さというものはいいということは先ほどもお話ししましたように認めた上ですが、かなり大変なことではないかなという気がしてなりません。

(丸山委員)

ちょっと勘違いしていらっしゃる方がいればいけないので、もしそうじゃなかったら申し訳ないですが。

多部制・単位制は定時制ですよ。われわれ定時制というと、夜間部と思うけど違うんですよ。現実には、昼間の定時制が吉田の戸隠分校にあるわけですよ。だから多部制・単位制は定時制なんですよ。基本的には午前部、午後部、夜部、それぞれで4年間かかるということですよ。

ただ3年でいきたいなという人は、午前部、午後部掛け持ちしたりすることができます

よということですよ。基本は午前と午後と夜という「定時制」なんですよ。だから先ほど中沢さんがおっしゃったことは、ちょっとわかりましたが要するに普通科というよりも、むしろ全日制の学校ね。全日制の学校というのは朝から夕方までちゃんとやるという学校。

その全日制の学校をなくして、定時制にするわけですよ。完全な定時制にするわけですよ。だからそれを、名前が残ろうと何しようと思う学校じゃないのって、私は前から言っているんですよ。だからなかなか難しいということなんですよ。

それからもうひとつ言いますが、こういうことは無理なんですか。例えばこの前ちょっと質問したら事務局ははっきりしなかったけど、定時制で独立校舎を持っている、不十分になるかもしれませんが、定時制の独立校舎があって、基本的には別に授業ができるというところが幾つかあると思うんですよ。

そのところに午後部をつくる。午後部をつくって夜をやれば、それは2部制ですよ。多部制ですよ。望月が提案したのは夜なしの、あれはなかなか交通の便が難しいから夜なしの、午前と午後の多部制と言っているわけでしょう。そうすると午後と夜の多部制だってあり得るわけですよ。

だから一部の定時制を、独立した校舎があるところをちょっとお金をかけて施設を充実させる。そして、午後の部、夜の部をつくって、それは多部制じゃないんですか。そうやって併設するということは無理ですか。その併設するときに困ったのは、それはなかなかその全日の生徒も行っている同じ時間帯に、定時制の生徒、つまり午後部の生徒が行くのはつらいよということがあるかもしれません。

でもそれは、いろんなことの問題点があるわけで、ほかのやり方の問題点があるわけで、問題点は必ずあるわけですよ。そのところはいろんなクリアの仕方を考える。別な校舎だったら、ある程度は授業は別々にできるしね。そんなに接触はないということになるわけですよ。

もちろん、そのようになった場合には、できるだけ工夫をしていろんな取り組みなんかも工夫をして交流ができるようなことも仕組むということも必要ですが、そういうことはできないんですか。それは多部制・単位制じゃないんですか。

だからそういうことを何年もやった上で、もし独立校舎なり、別な敷地でですよ。多部制・単位制の独立の学校が、もし用意できたらそこに転換していけばいいわけですよ。だから多部制・単位制をやらないんじゃないじゃなくて、定時制を変換をして多部制・単位制を2部制でつくるということだってあり得るんじゃないかと思います。

(中村委員長)

事務局にお尋ねします。独立校舎のある現状の定時制というのはございますか。

(吉江高校教育課長)

前回もご質問がありまして、それにはお答えしたと思うのですが、今丸山さんからお話いただきましたように、非常に不十分だとは思っていますが、ひとつの校舎として、いわゆる定時用の校舎というようなものがある学校というのは、確かにございます。

ただそれはあくまでも、夜間定時制の状況でございまして、今お話ございましたように、例えば昼間定時を入れた場合、昼間定時を入れるとグラウンドをどうするのか、体育館をど

うするのかというような問題が出てまいります。

それである意味それを、何とか工面してやっているのが、今の松本筑摩高校だと考えていますが、以前も申し上げたことがあろうかと思いますが、そもそも松本筑摩高校は定時制の学校としてスタートいたしました。

それに対して、急増期に逆に全日制を併設しまして、それで今、全日がむしろ3クラスという状況の中で、何とか工面して運用をしているというような状況でございます。

それを考えますと、私どもとしましては、やはり今後使い勝手がよい状況の中で、生徒さんがいろいろなことでじゅうぶん施設を活用して運用していただくということを考えた場合には、当然ながら独立校舎を持ったということで、これは併設ということではなくての多部制・単位制を考えている次第でございます。

それともう1点申し上げますと、それぞれの推進委員会のことを申し上げてはいけないのかもしれませんが、第一推進委員会以外の第二、第三、第四においては、それぞれ多部制・単位制高校を設置するということで理解をしていただいた上で、むしろ逆に例えばこちらのほうの第一推進委員会とか、あるいは第四、いわゆる中信地区ですね。そういうような地区にこそ、まずはつくるべきではないかというような議論もあった上で、最終的にはやはりそれぞれ県下4地区に必要なというような話にまとまって、多部制・単位制高校を設置する前提で、今は議論をいただいているという状況です。

確かにお話しいただいておりますように、併設型とかいろいろな考えは、全くないとは申しません。ただしかしながら、今申し上げたような弊害とか、あるいは私どもが今、丸山委員さんからもおっしゃられましたように、そもそものスタートは確かに全日制をある程度統合して、それで定時制たる多部制・単位制を設置するという前提に立っております。

その上で、さりとて私どもがかねてより申し上げておりますが、多部制・単位制はそうは言いまして、必ずしも夜間定時制に代表されるような定時というイメージではなくて、恐らく昼間と夜間定時制との間のものであろうかと、そういう意味では、全日制と定時制の間のものということで、今後じゅうぶん生徒さんの要望の多い学校になろうかと考えている次第です。

(中村委員長)

だんだん時間を気にしなければいけない時刻になってきましたが、今、多部制・単位制の配置に関して、2校の課題というのを再三申し上げますが、候補案に挙がっているものと対案に挙がっているもの、その課題について出してくださいということでしたが、それほど議論になりませんでした。

明確にわかっているのは、坂城高校を転換する場合には全日制普通科が地区から1校もなくなってしまう、1校しかありませんのでなくなってしまうという点を、中沢委員は主張されておられます。

それに対しては、多部制・単位制も全日制普通科に代わる部分もあるというご主張もあります。宮本委員はそうでしょうか。ありましたし、課題の1つである、転換した場合の課題の1つであらうかと思えます。

それから交通の利便性ということで、これはぜひ必要だというのは、皆さん共通の認識があらうかと思えますが、都市部という認識で多少解釈の違いがありそうだなと。屋代南、

坂城が利便性が悪いというご発言はないように思いますがいかがでしょうか。

これも多部制・単位制を、どう解釈するか。夜間定時制と解釈すると悪いということになるんですが、そうではない生徒がほとんどになる可能性もあるわけですね。そうすると、利便性が悪いということにはならない、課題ではないという。

（丸山委員）

それは前から出ているように、端っこ過ぎるという点では、利便性は問題じゃないんですか。坂城も屋代も。私はそういうふうに、北のほうから行く場合に、やっぱり利便性はそんなによくない。だからこそ長野という話が出ているんだということだと思いました。

（中村委員長）

それに対しては、夜間定時制が残るところもある。それからさらには全日制普通科で不登校の生徒を受け入れる場合が大変増えてきている。そういう点で、決定的な課題ではないと思いますが。

（丸山委員）

多部制・単位制のいい面は、逆に夜行く人は定時制、夜間定時制に行くんじゃないかという。だから昼間ですよ。午前と午後、午前か午後、自分の生活スタイルからいって行きたいと。それで単位を取って、高校卒業を取りたいという生徒にとっては、やっぱりそれは定時制があるからとか、あるいは、だから不登校のことを言っているわけじゃないんですよ。もちろん不登校の点については、小山さんも言ったとおり、私の学校もそうですからわかります。

ただそれは不登校だけじゃなくて、昼間、午前、午後行く生徒というのは、すべてから行かなくてもいいという話もあったけど、それでもやっぱり全地域から行けるところということで長野市が出ているんで、そういう点で言ったらやっぱり屋代南も坂城も、利便性で言ったらいいほうではないということですね。ダメとは言えないかもしれないけど、いいほうではない。問題があると。

それは坂城がダメだという、南のほうでダメだというふうに言ったことと、屋代南がダメだということと同じだと思うんですよ。そういう点では利便性の点でも、やっぱり多少問題があると私は言ったつもりなんですよ。

（中村委員長）

その辺は、意見の方向性はまだ定まらないと思いますが、利便性についてはほかにご意見ありますでしょうか。

（小山（壽）委員）

利便性についても、先ほど来言っているのは、市街地という問題に対して、私は太田フレックスについて言うと利便性は良いと思います。その中で太田フレックスがああ位置に、多部制・単位制高校に転換していくという形でつくられたんだろうと思っています。

そういう意味で言えば今、屋代南、坂城が挙がっているわけですが、双方とも交通の利

便性はある。もっと長野のほうが、長野市内のほうがあるではないかということについては、やはり長野市内の高校については校名が挙がってきていない。

従ってやはり今の時点で言うならば、屋代南と坂城、この両方に絞って考えていくべきではないかなと、そのように思います。

（中村委員長）

ほかにご意見ありませんでしょうか。

（若麻績委員）

利便性とは、やっぱり側面であると思いますので、そのことでひとつ思えば、長野駅を基点に考えてみれば、屋代まで 20 分、しなの鉄道で 20 分、坂城はそこから 5 分ぐらいですか、10 分ですか。まあ 30 分で行く。

また中心街という話が出ておりますが、長野駅を基点に考えてみますと市内の高校も公共機関を使った場合、ある程度は時間を要するわけですので、そういったことを勘案すれば、当然私鉄の坂城、それから屋代南も、そのエリアに入ってくるという感覚を持ちます。

（中村委員長）

ほぼ、ご意見が出尽くしたように思いますが。何か違った観点でございますでしょうか。

（中沢委員）

今、子どもたちが集まる場合には、それぞれ多様な考え方があって、そういったニーズに合わせるにはどうしたらいいかという観点も、ひとつ大事だなと思います。工業ばかりがニーズではなく、もっと大事なものは、ソフトな面がより充実されているとか、あるいは文化性がより高いとか、子どもらがそこに学びながら、地域を学ぶ環境が、その近くにあるというような、学生、来る人たちに与える、そういった環境というものから見ると、やっぱり都市であればあるほど、そういうことの充実感に浸ることが子どもたちはできるんだろうなという、そういった観点も必要なのではないかなと思います。

（中村委員長）

ほかにございますか。

先ほど、この委員会のまとめ方に関して、清水委員からと思いますが、委員長のお考えをということでありましたが、その辺であと残りの時間若干ご議論いただきたいと思います。

（若麻績委員）

私も先ほど 2 校のことで議論を進めていく必要があると発言させていただきましたが、そのための資料として、坂城高校の例については県教委の案を見ながら検討できるのですが、屋代南高校については、まだ今、利便性という面だけでしか議論が進まない。もうちょっと多面的な意味で、情報がほしいなという気がするんですが、その辺についての議論を深める材料というものは、どのように考えていらっしゃるでしょうか、教えていただき

たいと思うんですが。これは委員長にお伺いすればよろしいのでしょうか。

（中村委員長）

どうでしょう。どういったデータでしょうか。中学生の進学先とか、そういうデータでしょうか。

（若麻績委員）

その地域環境のものです。

（中村委員長）

事務局、お願いします。

（吉江高校教育課長）

今、若麻績委員さんからお話がございました、いわゆる坂城の場合の、例えば学校にどんな中学から入っていらっしゃるかと、そういうような具体的な数値的なデータでよろしければ、その辺は次回までにご用意をさせていただきたいと思っております。データ上は持っておりますので。

（若麻績委員）

はい。それで、基本的に同じ、こちらでいただいている再編案ですね。9 ページ、10 ページのデータの部分で、同じものがあると非常に比較しやすいかなと思いますので、よろしくをお願いします。

（中村委員長）

ほかにございますか。まとめ方、進め方を若干お願いしておきたいのですが。1 月中旬、これはもうそこで推進委員会の報告はしないといけないと思いますが、そこはよろしいでしょうか。そこはご異議ないということで、あとそうすると、最大開催しても2 回ということになるかと思うのですが。

以前の進め方ですと、委員長が文章を作るんでしょうか。それで皆さんでご議論をいただいて、修正して報告書とするということだったように思うんですが、当然委員長が作るという段階でも、ご相談申し上げる場合がございます。ファックス、メール等で。そういうものも含めて、委員会の中だけで文章を練り上げるという時間はとてもないと思いますので、全員にあらかじめ配布して、ご意見をいただいて修正した上で委員会に諮ってという形だと思いますが、そういう進め方でよろしいでしょうか。それを2 回のうちにやるということですが。

それで、そういう前提で申し上げますと、きょうの屋代南、坂城高校の多部制・単位制高校のこと、あるいはまだ長野市内というご提案もございますので、その辺も含めて議論はまだすんでいないと思いますが、ほかにも前回、前々回ですか、松代高校の校地校舎を利用せずに、長野南高の校地校舎を利用するという点は、まだほとんど議論していないというふうに思いますが、その辺の議論も並行して進めるということではよろしいでしょうか。

それから細部がまだ、委員会の方向性を示していない部分もよく考えるとあろうかと思  
います。それもやはり、並行して詰めていくという点でよろしいでしょうか。

何かご提案があればお願いします。

（丸山委員）

現実、もう2回だけということなので、まだ委員長さんが挙げた問題は、なかなか議論  
がひとつの大きな方向にとはならないと思うのですよ。ほかのところは、一定の方向性は  
出ているところもあるし、そうじゃないところもあると。

そういう点でいくと、ひとつは、この前委員長さんがおっしゃったように委員会ですの  
で、一定の方向性は出してもらおうようなまとめは、まとめられるところは、方向性が出て  
いるところは方向性としてもらって、それにも私意見は言ったんですが、私は問題点の指  
摘や反対の意見を言っているのも、それもぜひ入れてほしいという要望は出しました。

それからきょうのようなものも含めたものは、まだちょっと方向性ということまでい  
っていないと思います。方向性のっていないところについては、出た意見の主なものと  
いうか、課題というか、あるいは県教委に検討してもらうときの留意点というか、検討し  
てほしい点というか、そういうようなまとめ方でしか、しょうがないのではないかと。

つまりひとつの方向性が出せないという。なぜ出さないかという、ここにはこういう  
問題がある。ここにはこういう問題があるというまとめ方をしてもらうのと、地域によっ  
て議論をよく見ていただいて、分けていただくということかなと思うんですよね。全部が  
方向性出るまで、ちょっと無理だと思うんです。特に後半の議論の部分については。

それからもうひとつは、前回私が要望しましたが、きょうも県議会の意見書も出ていま  
すが、やっぱり実施時期の問題や、実施を19年度なり、延ばした場合にも、どこかのと  
ころで何年度かで、一発でやってしまうというか、そういうことでいいのか。年次的に、や  
る部分もあるのではないかと意見もあったので、やっぱり慎重にという部分を県議会  
を含めて、県民の大方の意見は、やっぱり慎重にやってほしいと。地域の意見をもっと聞  
いてほしいと。ようやく地域の議論が始まったところだという意見も、かなりあるわけ  
です。

そういう点では、県議会の意見に私は賛成なんです、やっぱりこの推進委員会で一定  
のまとめが出たのは出発点と考えるべきだと。今までは本格的に地域での議論はしていな  
いわけですから、県教委からするといっぱい、何年もかけてきたというけれど、地域から  
すると初めて議論を始めたというところですよ、ことしから。

そういう点で出発点という考え方からいって、やっぱり時期の問題、実施時期の問題と  
決定する時期の問題ですね。あるいは年次計画の問題、この辺もぜひまとめに入れていた  
だきたいと、その辺の議論も2回しかないですけどしてほしいと。まとめ方については、  
さっき前段申し上げたような方向で、地域によってその議論の様子を、性格を見ていただ  
いて書いていただければと思います。

(中村委員長)

きょうの議事進行のメモをあらかじめ作ってきたんですが、そのとおり丸山委員に、何かいつもそうなんですが、丸山委員先に言われてしまいました。

旧第1通学区から4区の議論の状況をですね。それから、魅力ある高等学校づくり、いわゆるわれわれが任された議論の4項目ですね、それに関する事項。それと3番目、実施計画に関する要望等ですね。あるいは地域の要望、これに限らず、いろいろな要望があるかと思います。そういう要望等ですね。そういう大きな項目が、ここには載せるべきだと思います。

もちろん、問題点の指摘、それから方向性が得られなかったところは、今ご指摘いただいたように出た意見の主なものという。懇話会のときには、両論併記というわけではなくて、「こういう意見が出ました」という併記を検討委員会にさせていただいたという点があります。

これは致し方ないかなと思うのですが、やはり地域でまとまって、あるいはこの推進委員会で一定の方向性が得られたところは先送りというのはもう考えずに、きちんところちらの方向でということ、報告しなければいけないと思います。

それは地域に意見も求めながら、ここで15回から17回にわたってご議論いただいたという、皆さん方にも敬意を表しなければいけないという点もあるかと思いますが、地域から対案を示す責任はないとおっしゃっているのも、もっとも当然でございますので、そういうところに無理をしてご議論いただいた点もあるかと思いますが、もちろん県民全体で議論を進めながらということもありますので、一定の方向性が得られたところは、実施に移していくように努力しないといけないと思います。

期間を先送りしてというのは、ちょっと中学生の影響が大きすぎますので、その辺はできるだけ早期実施のほうが、私はしていかなければいけないと思っています。

この辺で、ほかにご意見がありますでしょうか。

(青木委員)

今、委員長さん、大事な言葉を表現したと思いますが、一定方向に出たものは遅滞なく、事を淡々ととにかく進めていくべきだと。そして場合によっては、まだ一定の方向が出ていないものは、悪い表現で言えば言葉を濁したような形で、といいますか、その辺ちょっと難しいかと思いますが、ちょっと私が逆に危惧するのは、一定方向が出た地域が、きょうもちょっと委員長さんの発言にありましたが、旧第1、第2の方向は、ある程度一定方向が出たという言葉が出ました。

確かに私も、第2区関係者の地域に住むものでありますが、私もそのように認識はしております。ですからその方向が、県教委に、第一推進委員会の方向として出したときに、当然3月末までには実施計画は、県教委のほうで打ち立てていくのかもしれませんが、ただ心配は予算編成上どうしても、特に総合学科高校となると、やはり予算が必要なわけであります。それをどういうスケジュールで県教委が、これから新年度に向けて準備なさっていくのかは、それは思案のことと思いますが、ただ今回の教育委員長さんの人事案のことにつきましては、県議会の各議員の方々には理解を得られない形で終わったわけであります。

どうしてもこの、県教委の提案する高校改革プランは、まだ側聞するところ議会との理



解が深まっていない状況が垣間見えますので、この一定方向が見えたものの提案がされ、その実施計画の中で、予算編成の案が提案され、さあそこで議会との理解を得られなければ、まさに委員長さんがおっしゃったように、その被害が中学生にかかるんですね。

一定方向に出たものは、もう淡々と進めていく。でも一番、ひょっとしたら 18 年度以降の議会とのやりとりの中で、一定方向に出た地域が、逆に中学生に混乱が起き、まだ一定方向が出ていないものは、逆に言うならば具体的な方向が見えないだけに、中学生の間には、その混乱の時期がもっと先になるという、まさに第 1、第 2 のほうに関しては、ちょっとその辺が危惧されるわけですが、それは今誰にぶつけていいのかわからずに申し上げております。

その胸の内の苦しさを、ちょっと誰かが説明してくれればうれしいんですがいかがでしょう。

（中村委員長）

、実施計画に関する要望。多分ここで、再度議論しておく必要があるかと思う項目ですが、最近報道機関から盛んにインタビューを受けるのはこの辺です。

段階的实施という言葉が出てきているが、事務局は実施計画は全県にわたって同時だと。同時に実施計画を立てて進めていく。でもそれは、インタビューでも私答え、まだ報道されていないような気もするんですが、葉養元委員長さんが言っていられっやとおりだと思います。予算の確保が、まず難しいだろうと。

総合学科高校も多部制・単位制も、そのまま転換というわけにはいかないし、設備の面で皆さんが見てきたとおりの状況です。例えば、総合学科高校は大きな教室が必要だとか、それから類型制でしょうか、系列でしょうか。設備が当然新しくしなければいけない。既存のものも有効利用できるような整備案にはなっているかと思うんですけど。

多部制・単位制に関しても、非常に多様な学びのスタイルですから、IT 化はぜひ必要で、これは大学ですがよくわかります。掲示板のシステムとか出席等、とても教員の手作業では無理になってきますので、授業実施の計画等、カリキュラムの編成が教室予約の点から、ものすごく大変な作業になっています。こういうのは、やはり IT 化が必要で、そういう設備投資はぜひ必要になっていく。

だから、これを同時に全県でというのは、まず無理と考えますし、この辺がどうなるのかと。今、青木委員からご指摘になったように、一定の方向性が得られたところから実施していくのか。地域の理解が得られていないご提案に関しては、先送りになるのか。その辺の、推進委員会としての要望ですね。その辺をしておかないといけないんじゃないかと思えます。

これは後ほど事務局にコメントいただいて、進めていくということで。まだ 2 回のうち、この辺の要望をまとめる必要があるかと思いますが。

（坂口委員）

最後をお願いいたします。

先日の長野市の中学校長会でも、これを話題にしました。具体的に高校名が出ている地域の校長さんたちの声は、みんな違います。これは校長会としても、1 つにならないと

いうことはあらためて実感したわけです。

最後にやはり、中学生の進路指導をしている中学校側とすれば、余裕を持って進路指導をしていきたいなど。ということは、方向性が決まらない高校へ子どもたちが行くにあたって、中学校側では説明できないという、あるいは指導という点で、非常に苦しいということであります。

ですから今の策定、実施時期について中学校の校長の声とすれば、余裕を持って慎重に進路指導ができるような状況をつくってもらいたい。ですから、先送りが必ずしもいいわけではありませんが、今の3年生に関しては、きちとした指導が、今の段階ではできない状況が多々あるということだけ、ぜひよろしくお願いしたいということであります。

（中村委員長）

今のことに関連して、志願者数でしたか、第2回調査というのは、もう終わったのでしょうか。これは影響は。12月下旬と聞いておりますが、公表は集計ができ次第ということでしょうか。

事務局、お願いします。

（吉江高校教育課長）

今、予定数調査の集計をしている段階でございます。年を明けてからの公表になるかと思っています。それでただ、以前もこの委員会では、場合によってはお話し申し上げてないかもしれないのですが、11月1日付けでお出した志願者数につきまして、全部が全部とは申し上げませんが、基本的には大きな動きはないというような、私どもとしては理解しております。

それと今、まさしく坂口校長先生からお話がございましたように、なかなか青木委員さんからも厳しいご指摘をちょうだいしております。それで私どものほうで今どうこうというようなことで、なかなか答えづらい問題がございますが、反面こういうような議論が一定の方向性に固まってまいりませんと、恐らくこれから受ける中学の、今は3年生、2年生、1年生ということで、継続的に不安感がどうしても継続的なものとして残ってしまうんじゃないかということを、私どもとしては危惧しております。

そんなことから、ある程度の時期に当然ながら実施計画というようなものをお示しいという前提で、現在考えておりまして、その中では青木市長さんのほうからご心配いただいたような議論もございますので、その辺は私ども今の段階でスケジュールを問われて、こういうようなスケジュールでございますということは、前々から申し上げておりでございますが、今後いただく内容等を見させていただいた上で、私ども事務局としても実施計画の策定の、1つの方向付けとしての検討材料にさせていただきたいと思っております。

（小山（壽）委員）

基本的には、先ほど委員長さんがまとめられたとおりでいいと思いますが、やっぱり新しい学校づくりをするわけでありますので、お金の面、それから実施計画が年度末までに作られるということはいいいわけでありますが、これは推進委員会として、実施時期につい

ては、別の要望が出せるのではないかなと思いますので、それについてはまた別途にやりたいと思います。

（中村委員長）

はい。ある程度全体がまとまってこないと、要望としてもなかなか方向が出ないと思いましたが、最後になってきましたけど、あと2回のうちにはそういう文面を作ることを前提にやっていきたいと思います。

ほかに何か。特になければ。あと2回というのはよろしいでしょうか。3回やろうと思えば、できますが、よろしいですかね。

では、次回の予定について、事務局からお願いいたします。

（三澤教育支援主事）

次回以降の日程ですが、一応年明けで、もし考えさせていただくとすれば、1月7、8、9あたりで1回、14、15あたりで1回ということではいかがかと思っています。各委員さんの状況等、また把握しながら委員長さんと相談の上、決定してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

ほかに、特にございますでしょうか。

なければ、これで第15回の高等学校改革プラン推進委員会を閉じさせていただきます。大変お疲れさまでした。